

会 告 目 次

研究発表会開催通知	1
第 86 回 データベース・システム研究会	1
第 4 回 情報メディア研究会	2
第 39 回 ヒューマンインタフェース研究会	3
第 86 回 自然言語処理研究会	4
第 19 回 コンピュータと教育研究会	5
第 24 回 情報学基礎研究会	6
第 5 回 プログラミング—言語・基礎・実践—研究会	7
第 83 回 計算機アーキテクチャ研究会	8
第 75 回 コンピュータビジョン研究会	9
第 24 回 アルゴリズム研究会	10
第 79 回 人工知能研究会	10
第 12 回 人文科学とコンピュータ研究会	11
第 64 回 記号処理研究会	12
情報処理学会第 44 回全国大会実施要領	13
小規模国際会議論文募集	17
「マイクロコンピュータ・アーキテクチャ」シンポジウム開催について	20
「B-ISDN 時代におけるマルチメディア通信と分散処理シンポジウム」開催について	22
「グラフィクスと CAD シンポジウム」開催について	24
本会協賛等の行事案内	25
「知識のリフォーメーション—知識表現と学習の新方向—」シンポジウム開催について	27
学会誌送本先の住所等の変更届について（お願い）	28
「利用者指向の情報システム」シンポジウム開催について	30
「情報専門学科のコアカリキュラム—その内容、運用と問題点—」シンポジウム開催について	31
「アドバンスト・データベースシステム・シンポジウム '91 と講習会」開催について	34
「1992 年並列処理シンポジウム JSPP '92」論文募集	36
大学等における情報処理教育のための調査研究報告書頒布のお知らせ	37
第 8 回 色彩工学コンファレンス	38
第 22 回 画像工学コンファレンス	40
支部だより	44
会議案内	46
教官募集	48
編集室	49

研究発表会開催通知

(平成3年10月15日～11月30日)

研究会	日	時	会場	備考
情報システム	10月15日(火)	13:00～17:00	機械振興会館	前号参照
数値解析	10月19日(土)	13:00～17:20	名大	同上
グラフィクスとCAD	10月23日(水)	10:30～15:00	同上	同上
データベース・システム	11月8日(金)	9:30～17:30	A I C	下記参照
情報メディア	11月8日(金)	10:20～17:20	NTT(横須賀)	同上
ヒューマンインタフェース	11月14日(木)	10:00～17:00	機械振興会館	同上
自然言語処理	11月15日(金)	10:00～17:15	NTT(武蔵野)	同上
コンピュータと教育	11月15日(金) 11月16日(土)	12:30～17:45 9:00～12:45	九工大	同上
情報学基礎	11月19日(火)	10:00～16:40	情報大	同上
プログラミング—言語・基礎・実践—	11月21日(木) 11月22日(金)	10:00～17:00 10:00～17:00	工技院	同上
計算機アーキテクチャ	11月21日(木) 11月22日(金)	13:00～17:00 9:30～15:30	香川短大	同上
コンピュータビジョン	11月22日(金)	10:00～16:30	千葉大	同上
アルゴリズム	11月22日(金)	13:00～17:00	神戸大	同上
人工知能	11月26日(火)	10:20～16:30	機械振興会館	同上
人文科学とコンピュータ	11月29日(金)	10:00～17:30	川崎市民 ミュージアム	同上
記号処理	11月29日(金)	13:00～17:00	電通大	同上

会
告

◆ 第86回 データベース・システム研究会

(発表件数: 13件)

(主査: 増永良文, 幹事: 北川博之, 田中克己, 鶴岡邦敏)

日時 平成3年11月8日(金) 9:30～17:30

会場 AIC (高度通信システム研究所) 大会議室

(仙台市青葉区南吉成 6-6-3, 南吉成 ICR ビル, JR: 仙台下車, バス (西口バスプール・15番のりば) 大石原線: 南吉成行 (8時40分以降に30分間隔 (所要時間約35分)), または西道路經由南吉成・八乙女駅行 (8時18分発のみ (所要時間20分)) で南吉成4丁目下車, 徒歩5分, タクシーでは西道路經由約20分。

Tel. 022 (279) 3310 吉村, 福田)

議題 小特集: 通信とデータベースとオブジェクト指向

—9:30～12:00—

(1) オブジェクト指向データベースの医療への応用

金森吉成 (群馬大), 増永良文 (情報大), 脇山俊一郎 (仙台電波高専)

(概要) オブジェクト指向データベースを医療分野に適用する具体例として症例データを選び, そのデータベースを設計した。

- (2) 欠落データを含む木簡データベースのクラス階層化について
 上島紳一 (関西大), 園田浩一 (姫路獨協大), 大月一弘 (神戸大)
 [概要] 木簡データの欠落状況を考慮したクラス階層化について考察し, 検索の効率について述べる。
- (3) 辞書ハイパーテキスト Hydra
 根本治朗, 山下真司, 松山洋一, 内藤広志, 柵木孝一 (キャノン)
 [概要] Hydra の開発に際して採用した, 大規模データのハイパーテキスト化手法等について述べる。
- (4) オブジェクト指向データベースによるマルチメディア統合化
 堤竹秀行 (東芝)
 [概要] オブジェクト指向データベースを用いたオフィスにおけるマルチメディア情報の統合環境について述べる。
- (5) オブジェクト管理用データベースシステム Zodiac-1 の概要
 田沼 均 (電総研)
 [概要] 永続的オブジェクトの管理用に設計したデータベースシステムの Zodiac-1 の概要を発表する。
- 13: 15~17: 30-
- (6) 招待講演: 通信とデータベース
 野口正一 (東北大)
 [概要] 本格的な分散処理システムを実現するために, 通信とデータベースの果たすべき役割について論じる。
- (7) 異機種・異種ネットワークにおける通信と DB
 末舛史郎 (ソフトウェア・エージ)
 [概要] オープン化, ダウンサイジング指向への変化を踏まえて異機種・異種ネットワークにおける通信と DB を論じる。
- (8) ネットワーク管理における管理情報ベース (MIB) 構成法の一検討
 西尾 学 (NTT)
 [概要] MIB を構成するために行った, ネットワーク管理に必要な情報の抽出とその格納方式の検討結果を述べる。
- (9) ネットワーク管理情報ベース (MIB) の開発支援環境
 桐葉佳明, 中井正一郎, 井原慈子, 有馬啓伊子, 栗山 博, 長谷川聡 (日電)
 [概要] オブジェクト指向によりモデル化されるネットワーク管理情報を管理する MIB の実現方式に関して報告する。
- (10) 通信網管理におけるオブジェクト指向データベースの適用
 中川純一, 山中康史, 八巻俊文 (NTT)
 [概要] 通信網の網構成情報を統合的に管理する共通データベースへのオブジェクト指向 DBMS の適用を検討する。
- (11) 加入者線路保守システムへのオブジェクト指向データベースの適用性
 加藤康之 (NTT)
 [概要] 通信サービスの多様化にともなう設備更改等に柔軟に対応可能な保守システムの構築を目的としたOODBの開発。
- (12) ネットワーク環境のオブジェクト指向データモデリングの試み
 福田健一, 村田美恵, 吉村 晋, 村田真人 (AIC), 布川博士 (東北大), 増永良文 (情報大)
 [概要] AIC が検討・構築中の OODB を用いたネットワーク環境モデルの基本概念および基本機能について述べる。
- (13) ネットワーク環境の OODB におけるヒューマンインタフェースアーキテクチャについて
 吉村 晋, 村田美恵, 村田真人 (AIC), 布川博士 (東北大), 増永良文 (情報大)
 [概要] AIC が構築中のネットワーク環境 OODB モデル上でのヒューマンインタフェースアーキテクチャのポリシーを述べる。

* 研究会終了後, 仙台市内の別の会場で懇親会を予定しております。奮ってご参加ください。(要予約, 下記担当)
 なお, 今回の研究会会場等には食堂の設備がありません。昼食をご希望の下は下記担当までご連絡願います。
 担当: 布川 (東北大・通研) Tel. 022 (227) 6200 (内 3412) e-mail nunokawa@iec.tohoku.ac.jp
 吉村, 福田 (AIC) Tel. 022 (279) 3310 FAX 022 (279) 3640 e-mail fukuda@aic.co.jp

◆ 第4回 情報メディア研究会

(発表件数: 6件)

(主査: 相磯秀夫, 幹事: 石塚英男, 上林憲行, 田中 謙, 中川 透)

日 時 平成3年11月8日(金) 10:20~17:20

会 場 NTT 横須賀 R&D センタ

[横須賀市武 1-2356, 京浜急行(久里浜線): 野比下車(野比駅には特急のみ停車, 快特の場合は久里浜駅で特急に乗り換え), 京急バス: 通研行または市民病院行で通研下車(約10分). Tel. 0468 (59) 3820 (中川)]

議 題 特集: マスメディアと個人情報空間

—10:20~12:00—

- (1) 広帯域 ISDN における話題情報散策/提示システム 小林直樹, 中川 透 (NTT)
〔概要〕 広帯域 ISDN を用いて, 電話・新聞・TV を統合した新たなメディアとして提案するダイナミックペーパーシステムの課題について述べる。

- (2) 新聞とファクシミリ放送 森本英之 (朝日新聞社)
〔概要〕 人生は落下速度とか。人類, 技術も同じ傾向をたどれば, 新聞の将来はどうか。到着時点で衝突, 破滅するのか。

(3) 見学会 —13:00~14:00—

—14:00~17:20—

- (4) 情報誌の現状と将来 松井 隼 (びあ)
〔概要〕 「情報誌」の概念規定・「情報誌」成立の社会的背景・「情報誌」と電子ネットワークメディア。

- (5) 映像メディアのインテリジェント化 紫田正啓 (NHK)
〔概要〕 放送システムにおける映像情報処理の高度化・インテリジェント化について, 特に映像制作に関する新しい試みを紹介し, 将来展望を述べる。

- (6) ニューストピックの知的録画 (不完全な問合せに基づく個人情報空間の作成) 田淵仁浩, 村岡洋一 (早大)
〔概要〕 ニュースから見たいトピックだけを録画するシステムを, 不完全質問処理の応用例として論じる。

- (7) 車載用ナビゲーションの現状と将来 住沢紹男, 角田政一 (ザナヴィ・インフォマティクス)
〔概要〕 デジタル地図技術を利用したナビゲーションシステムの現状と将来について紹介する。

◆ 第39回 ヒューマンインタフェース研究会

(発表件数: 9件)

(主査: 安西祐一郎, 幹事: 井関 治, 小川克彦, 廣瀬通孝)

日 時 平成3年11月14日(木) 10:00~17:00

会 場 機械振興会館 6階 67号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, または JR: 浜松町下車, バス: 渋谷-東京タワー線東京タワー, 渋谷-東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車. Tel. 03 (3434) 8211〕

議 題

—10:00~11:45—

- (1) 障害者のためのインタフェース 篠原正美 (製科研), 太田 茂 (川崎医大)
〔概要〕 障害者のためのインタフェース構築に関する研究動向および内外の社会動向を紹介する。

- (2) 左半側視空間失認患者の視覚軸の歪みについて 森 博彦 (武蔵工大)
〔概要〕 左半側視空間失認患者の視覚軸の歪みと図形模写への影響について調べ, その原因について考察する。

- (3) 弱視者に対するコンピュータを用いた拡大文字の効果的提示方法(1) 一白黒反転の効果— 中野泰志 (特殊教育研究所)
〔概要〕 コンピュータを用いて弱視者に拡大文字を提示する際の条件として, 白黒(ネガポジ)反転の効果を検討する。

—13:00~17:00—

- (4) コミュニケーションエイドの生体工学的研究 伊福部達 (北大)
〔概要〕 感覚系障害を補助したり代行するコミュニケーションエイドについてわれわれの研究室で取り組んできた生体工学的研究を概説する。

- (5) 聴覚障害者のためのコミュニケーション技術 鎌田一雄 (宇都宮大)
〔概要〕 手話言語で必要となる画像処理, 言語処理技術や, ISDN サービスにおける画像伝送サービスの福祉への応用について述べる。

- (6) 触覚伝達における三次元表示の有効性 清水 豊 (筑波技術短大)
〔概要〕 盲人用コンピュータ端末としての触覚ディスプレイの開発に際して, 触覚情報認知特性を調べた結果を述べる。

(7) 動き情報の検出とヒューマンインタフェースへの応用

待井康弘, クンラポン・ユニーパン, 酒井善則 (東工大)

〔概要〕 人の上半身のモデル化を行い, 本モデルに基づいた手振りの認識およびモデルのパラメータの辞書化について検討する.

(8) コミュニケーションエイドのための文章作成方法

村木政彦, 井上倫夫, 小林康浩 (鳥取大)

〔概要〕 ALS 患者のための意志伝達補助装置および辞書を用いた文章作成方法について述べる.

(9) 保健・医療・福祉情報の一元化の試み

松原 勇 (金沢経済大), 鏡森定信 (富山医科薬科大), 角丸豊子 (朝日町保健センター)

〔概要〕 医療情報, 保健情報, 福祉情報の3つの情報をフロップで一元的に管理し, パソコンを用いて訪問保健指導を行った試みについて報告する.

* 今回の研究会は電子情報通信学会 (ヒューマンコミュニケーション研究会) との共催で開催されます.

◆ 第86回 自然言語処理研究会

(発表件数: 9件)

(主査: 野村浩郷, 幹事: 田中裕一, 徳永健伸, 内藤昭三)

日時 平成3年11月15日(金) 10:00~17:15

会場 NTT 武蔵野研究開発センター 6号館 202B 会議室

〔武蔵野市緑町 3-9-11, JR(中央線): 三鷹(北口)下車, 関東バス: 電気通信研究所前行で終点下車, または北裏行で武蔵野市役所前下車, 徒歩5分. Tel. 0422 (59) 3276 (内藤)〕

議題

—10:00~12:00—

(1) 文書の文字認識結果に対する後処理方式

木谷 勉 (NTT データ)

〔概要〕 文書の文字認識結果に対し, 文字切り出しと文字認識の誤りを高精度で修正できる後処理方式を提案する.

(2) 長い日本語文における並列構造の推定

黒橋禎夫, 長尾 真 (京大)

〔概要〕 並列句や節は類似した構造で現れやすい. これを構文解析でなく, 文節のすべての組合せについて文節並びの類似度を計算する方法で求め, 良い結果を得た.

(3) Descriptive and Representational Frameworks for English Collocations in an Electronic Dictionary

末松 博, 杉浦真弓, 有岡昌子, Timothy JONES (EDR)

〔概要〕 複合語, 慣用表現を含む連語の記述法, および電子化辞書における表現法を英語を例にとって提案する.

—13:00~17:15—

(4) 接続詞が持つ制約と連文の結束性

伊藤俊一, 阿部純一 (北大)

〔概要〕 接続詞「しかし」が後文の深層格表象および表層表現に対して与える制約を定式化し, 考察を行った.

(5) 英日機械翻訳システム TOMCATS

原田雅弘 (日本 IBM)

〔概要〕 英日機械翻訳システム TOMCATS について, その設計方針と概要を示す.

(6) 日本語文章における照応・省略現象の基本的検討

藤澤伸二, 増山 繁 (豊橋技科大), 内藤昭三 (NTT)

〔概要〕 日本語文章における照応・省略の使用法に関する調査結果を報告し, さらにそれに関する4つの仮説を立て検証する.

(7) YAGLR アルゴリズムの実現と評価

K. G. Suresh, 田中穂積 (東工大)

〔概要〕 YAGLR 法と呼ぶ新しい一般化 LR 法に基づくパーザを Prolog 上に実現し, その性能を評価する.

(8) 目的言語の知識を用いた訳語選択とその学習性

野美山浩 (日本 IBM)

〔概要〕 目的言語の知識を用いて訳語選択を行う手法について述べ, その学習性を考察する.

(9) 後編集結果を利用する機械翻訳システム

伊藤悦雄, 武田公人, 天野真家 (東芝)

〔概要〕 ポストエディットの結果を, 次の文書の翻訳に反映することができる機械翻訳システムについて述べる.

◆ 第19回 コンピュータと教育研究会

(発表件数: 17件)

(主査: 有山正孝, 幹事: 雨宮幸雄, 大槻説乎, 竹谷 誠)

日 時 平成3年11月15日(金) 12:30~17:45

16日(土) 9:00~12:45

会 場 九州工業大学 情報工学部 第1会議室

〔飯塚市川津 680-4, 福岡空港, JR 博多よりバス, 飯塚バスセンター下車, バスセンターよりタクシーで8分, またはJR(筑豊線): 新飯塚下車, バス: 九工大行(約15分, 本数少). Tel. 0948 (29) 7618(大槻)〕

議 題

11月15日(金)

- (1) 初心者の作成した COBOL プログラムの誤りに関するデータベースとその利用

江木鶴子(宇部短大), 岡村健史郎(大島商船高専), 長田一興(近畿大)

〔概要〕 誤り分析を基にした初心者の誤りプログラムの DB 化と教育や教育システムへのその利用について。

- (2) OCR と点字プリンタによる点訳支援

石田久之(筑波技術短大)

〔概要〕 OCR と点字プリンタを用いた点訳支援システムについて, 実質的な精度・効率的な人間の介在方法を述べる。

- (3) 使用目的に応じた指導方略

渡辺健次(佐賀大)

〔概要〕 分数計算を指導する知的 CAI システムにおいて, 使用目的に応じた指導方略について議論する。

- (4) ITS のための汎用フレームワーク: FITS における対話管理メカニズム

時森健夫, 野村康雄(関西大), 河野恭之, 池田 満, 溝口理一郎(阪大)

〔概要〕 ITS の対話プロセスを知的に管理するメカニズムを提案し, 理想的な知識相互伝達の実現について述べる。

- (5) 地理学習における知識処理(2)

藤崎健幸, 金西計英, 矢野米雄(徳島大)

〔概要〕 本研究は地理学習を支援する ITS の構築を目的とし, 統計表を対象とした知識処理について考察を行う。

- (6) 知的 CAI システム CAIRNEY におけるスキル知識の扱い

木山 稔, 福原美三(NTT)

〔概要〕 装置保守等のスキル知識を中心としたコースウェアを簡易に作成する方式について述べる。

- (7) 開放型 CAI における知的学習環境 —漢字学習 CAI システム漢字工場の構築—

林 敏浩, 矢野米雄(徳島大)

〔概要〕 外国人の漢字学習を対象として, 学習を支援する開放型 CAI の知的学習環境の枠組と構築について述べる。

- (8) 授業設計に応じた操作環境の編集機能を持つマイクロワールド

新ヶ江登美夫(福岡大), 竹内 章, 大槻説乎(九工大)

〔概要〕 学習者の操作環境の編集が容易にできる機能を持つ, 正比例・反比例を指導するマイクロワールドの試作。

- (9) ハイパテキストによる知識の伝達とその評価

渡辺成良(群馬大)

〔概要〕 知識の伝達を授業形式とハイパテキストの2方法で行った場合, ITS による演習結果に差が生じるかを調べる。

- (10) ハイパカードによるバグ診断システム

徳田尚之(宇都宮大)

〔概要〕 80個近くあるバギー・モデルのバグを効率よく同定する診断システムについて発表する。

11月16日(土)

- (11) 手続き的知識の学習者モデルの表現について

森広浩一郎, 池田 満, 溝口理一郎(阪大)

〔概要〕 手続き的知識の教育に必要な知識の構成要素と, 学習者モデル構築に適した知識表現について考察する。

- (12) ITS における適応的教授のための学習者モデル診断

松田 昇(金沢工大), 岡本敏雄(学芸大)

〔概要〕 教師の持つ仮説生成・検証機能を組み入れた学習者モデル診断機構の構成とその推論手法について述べる。

- (13) ITS—学習者モデルにおける概念形成機能について

岡本敏雄(学芸大)

〔概要〕 ITS—学習者モデルに概念形成機能を組み込むことによって, システムの学習者認識機能を向上させることを目的とする。

- (14) 知識ベースに制御されたメディアインタフェースによる学習支援

伊藤紘二, 伊丹 誠(東理大)

〔概要〕 操作自在なメディア表現を, 分野知識で制御することにより, 学習者の問題解決の高度な支援を達成する。

- (15) ITS のための汎用フレームワーク：FITS における知識ベース構築支援
島崎克也，坂根謙一，野村康雄，太田義一（関西大），池田 満，溝口理一郎（阪大）
〔概要〕 FITS を用いて ITS を表現する際に必要な知識を整理し，構築プロセスを支援する方法について考察する。
- (16) ICAI における対象世界モデルの再認識機構について 一高校化学の問題演習型 ICAI を題材として一
山本公洋，齊藤謙一，小西達裕（早大），伊東幸宏（静岡大），小原啓義（早大）
〔概要〕 人間は必要に応じ外界を多様にモデル化する。その機構を ICAI の問題解決に導入することの必要性を示す。
- (17) 問題演習支援システム PAS における問題分類と問題演習支援機能
平嶋 宗，柏原昭博，豊田順一（阪大）
〔概要〕 算数の文章題を対象とした問題演習支援システム PAS における問題分類と問題演習支援機能について述べる。

◆ 第 24 回 情報学基礎研究会

（発表件数：8 件）

（主査：有川節夫，幹事：岩野和生，根岸正光，吉田郁三）

日 時 平成 3 年 11 月 19 日（火）10：00～16：40

会 場 図書館情報大学 大会議室

〔つくば市春日 1-2，東京駅八重洲（南口）より高速バス：つくばセンター行で終点下車（約 70 分），徒歩 5 分。
Tel. 0298 (52) 0511〕

議 題 特集：情報化社会における図書館情報学の進展

—10：00～12：00—

- (1) 図書館情報へのマルチメディアシステムからのアプローチ

藤田岳久，阪口哲男，杉本重雄，田畑孝一（情報大）

〔概要〕 電子図書や図書情報案内など図書館情報学分野におけるマルチメディアシステムの適用性について述べる。

- (2) CG 映像による電子図書館「孫悟空」—そのシステム構成— 佐藤 衛（テレマティーク国際研究所）

〔概要〕 CG で作成した開架型図書室の映像を対話的に利用した図書検索の画像認識・文章処理を含んだシステム解説。

- (3) 情報環境の変容と情報リテラシー 牛島悦子（白百合女子大）

〔概要〕 技術進歩により実現した，より広範囲な情報アクセスと高度な情報活用の前提として求められる教育について述べる。

—13：00～16：40—

- (4) 特別講演：情報化社会と図書館情報学の発展 藤川正信（情報大）

〔概要〕 記録と記号の関連の解明を意図する図書館情報学の主題分析から知識ベース構築にいたる発展経過を論評する。

- (5) 既存の情報検索理論・手法の問題点 細野公男（慶大）

〔概要〕 情報検索分野における理論・手法の発展経緯と問題点を概括し，今後解決すべき課題を明らかにする。

- (6) マルチメディア電子図書館システム構築の技術課題 増永良文（情報大）

〔概要〕 電子図書館システムをマルチメディア・データベースシステムと捉えて，その構築の技術課題を論じる。

- (7) 教科書データベースの現状と課題 細野二郎，辻本美樹子（教科書研究センター）

〔概要〕 教科書データベース作成の経緯，データベースの内容，利用状況，今後の課題等について報告する。

- (8) 電子原稿・電子出版・電子図書館 根岸正光（学情センター）

〔概要〕 SGML による学会誌の作成，全文データベース化の実験をとおして，今後の学術情報流通を展望する。

* 研究会終了後に図書館情報大学の施設見学を予定しています。

◆ 第5回 プログラミング—言語・基礎・実践—研究会

(予定発表件数：14件)

(主査：安村通見，幹事：久世和資，萩谷昌己，松岡 聡)

日 時 平成3年11月21日(木) 10:00~17:00
22日(金) 10:00~17:00

会 場 工業技術院 筑波研究センター 共用講堂 中会議室

(つくば市東 1-1-4, JR (常磐線): 荒川沖(東口)下車(約1時間), 関東鉄道バス: 筑波大中央行で並木2丁目下車(15分), 徒歩5分, または東京駅八重洲(南口)より高速バス: つくばセンター行で並木大橋下車(約1時間).

Tel. 0298 (54) 2130)

議 題 特集: 並行・並列・分散処理

- (1) 並列プログラムの非決定的動作テスト方式 橋本辰範 (NTT)
〔概要〕 並列プログラムの動作履歴から非決定的動作を検出しその代替動作を通信順序制御により実行させるテスト方式。
- (2) 時間概念を導入した並行計算モデル 佐藤一郎, 所真理雄 (慶大)
〔概要〕 CCS に時間的遅延を導入して並行計算に含まれる時間性の表現を可能にし, さらに時間的観測等価関係を与える。
- (3) 計画問題向き並列制約論理型言語 GCL 上田晴康 (富士通研)
〔概要〕 計画問題は典型的な探索問題である。論理型言語の探索機能に並列法, 制約処理を加えた言語 GCL を提案する。
- (4) 接続法による並列処理言語の表示的意味記述について 大山口道夫, 山田高明, 太田義勝 (三重大)
〔概要〕 接続法による並列処理言語の表示的意味記述について非同期通信に基づく, 並列処理言語に対して接続法を用いた表示的意味記述を与える方法について述べる。
- (5) 並行計算のための抽象アーキテクチャについて 久保 誠, 所真理雄 (慶大)
〔概要〕 並行計算のための抽象アーキテクチャの概要を提示し, 特に, その原型となった π 計算との差異を論ずる。
- (6) 非同期通信と並行計算理論 本田耕平, 久保 誠, 所真理雄 (慶大)
〔概要〕 非同期通信を基礎として, 並行計算理論を考える意味を, いくつかの基礎的な結果を紹介しつつ論ずる。
- (7) 並列3次元ダイナミックプログラミング法によるタンパクの配列解析 戸谷智之 (ICOT)
〔概要〕 DP 法によるタンパクの配列解析シミュレーションを並列計算機上に実現し, 効率的な並列実行のための解析を行った。
- (8) 2端子対を持つ有向オイラーグラフの辺素な路問題の並列アルゴリズム 中山真一, 増山 繁 (豊橋技科大)
〔概要〕 2端子対を持つ有向オイラーグラフの辺素な路問題を CREW PRAM 上で解く並列アルゴリズムを開発した。
- (9) マルチプロトコルによる分散ダブルスペースの実現 千葉 滋, 加藤和彦, 益田隆司 (東大)
〔概要〕 複製を用いて実現された分散ダブルスペースの実行効率を弱い一貫性制御によって改善する手法を述べる。
- (10) Interpreting OBJ 3 subsorting in Martin-Lof's subset theory with universe 木下佳樹 (電総研)
〔概要〕 OBJ 3 の subsorting 機構の型理論の意味論を与える。
- (11) 行動ベースエージェントによるマルチエージェントシステム 奥乃 博, 大里延康 (NTT)
〔概要〕 システムを機能分割ではなく, 行動分割によって捉えたエージェントによる自律的システムを提案し, その応用を述べる。
- (12) LOTOS によるソフトウェアプロセスの全体記述と開発者個人ごとのプロセス記述の導出 中山高史, 東野輝夫, 谷口健一 (阪大)
〔概要〕 ソフトウェアプロセスの全体記述から開発者個人のプロセス記述を導出するための方法と適用例について述べる。
- (13) ハード制御・通信に用いる埋込システムの設計手法 河野善弥 (埼玉大)
〔概要〕 首記を意図からプログラムにいたる段階的な情報変換過程として捉え, 主要なノードの表記を説明する。

(14) 並列リダクションにおける引数評価時の決定戦略

干場美佳子 (日本 IBM)

〔概要〕 並列リダクションの引数評価時を決定するための書き換え規則の解析方法と決定戦略の提案, 実感成果の報告.

* 今回の研究会は電子情報通信学会 (コンピュータ研究会, ソフトウェアサイエンス研究会) との共催で開催されます. 上記会告は, 9月6日現在の申込みによるもので上記以降の申込み分を含めた最終的なプログラムは電子情報通信学会誌 10月号に掲載されますので, ご了承ください.

◆ 第83回 計算機アーキテクチャ研究会

(発表件数: 14件)

(主査: 富田眞治, 幹事: 後藤厚宏, 村上和彰, 横田 実)

日 時 平成3年11月21日(木) 13:00~17:00

22日(金) 9:30~15:30

会 場 香川短期大学 経営情報学科 2階 第2講義室

〔香川県綾歌郡宇多津町 4-5-1784-518, 高松駅より JR: 宇多津下車 (40分), 徒歩10分. (高松空港から高松駅まではバスで35分). Tel. 0877 (49) 5500〕

議 題 小特集: コンパイラとアーキテクチャ

11月21日(木) —13:00~17:00—

(1) 基調講演: OSCAR/Fortran コンパイラ

本多弘樹 (山梨大)

〔概要〕 マルチプロセッサシステム OSCAR の Fortran 並列化コンパイラの内容を中心に並列化コンパイラの研究動向を述べる.

(2) OSCAR/Fortran コンパイラのインプリメンテーション

本多弘樹 (山梨大), 岡本雅巳, 合田憲人, 笠原博徳 (早大)

〔概要〕 階層型マルチプロセッサシステム OSCAR の Fortran 自動並列化コンパイラのインプリメントについて報告する.

(3) スーパスカラプロセッサにおけるループ並列化方式の検討

白川健治, 井上 淳 (東芝)

〔概要〕 ソフトウェアパイプライン等ループ並列化を行った場合の効果および問題点を指摘し, 解決法を探る.

(4) 条件実行アーキテクチャ GIFT の最適化コンパイラ

中谷信太郎 (早大)

〔概要〕 VLIW アーキテクチャのために効率よく高並列なコードを生成する手法およびそのハードウェアサポートを述べる.

(5) Datarol マシンの資源管理方式

日下部茂, 谷口倫一郎, 雨宮真人 (九大)

〔概要〕 Datarol マシンの資源管理方式, 特にオペランドメモリの管理方式においてコンパイラが果たす役割を述べる.

(6) IPC: 統合型並列化コンパイラ —ネットワーク・シンセサイザの評価—

赤星博輝, 村上和彰, 福田 晃(九大), 富田眞治 (京大)

〔概要〕 プログラム通信形態を PE 間通信トポロジ列に変換するネットワーク・シンセサイザを評価する.

11月22日(金) —9:30~12:00—

● 一般発表

(7) AI ワークステーション PSI/UX のアーキテクチャ

益田嘉直, 松本 明, 池田守宏 (三菱電機)

〔概要〕 第5世代プロジェクトの成果である PSI をベースに UNIX との統合化を図った PSI/UX について述べる.

(8) 擬似ベクトル処理向きメモリアーキテクチャの一提案

位守弘充, 伊藤元久, 中村 宏, 中澤喜三郎 (筑波大)

〔概要〕 大規模ベクトル処理をスカラプロセッサを用いて数倍高速に行う新データ供給・格納系の構成方式を提案する.

(9) スーパスカラプロセッサ—SARCH—の性能評価

中西知嘉子, 町田浩久, 安藤秀樹, 中屋雅夫 (三菱電機)

〔概要〕 スーパスカラプロセッサ—SARCH—のアーキテクチャと, シミュレーションによる性能評価について述べる.

- (10) 資源共有型並列計算機“砂丘”の制御方式の検討 瀬崎直裕, 井上倫夫, 小林康浩 (鳥取大)
 【概要】汎用のマイクロプロセッサを用いた資源共有型マルチプロセッサシステムの制御方式について述べる.

—13:00~15:30—

- (11) 並列計算機 ADENART におけるデータの分散配置 森 康浩 (松下電器)
 【概要】ADENART における配列データの分散配置方式とこれを実現するためのハードウェア構成について述べる.

- (12) 超並列向き de Bruijn 網の諸特性 奥川峻史 (京産大)
 【概要】直径がハイパキューブの $\log 2N$, 次数がトラスの4である de Bruijn 網の FESAL (fault tolerance 等) 特性をまとめる.

- (13) Mandala: An Interconnection Network for a Massively Parallel Computer
 Andrew FLAVELL, 加納卓也, 藤本茂訓, 高橋義造 (徳島大)
 【概要】完全結合網を階層的に接続してできる, 超並列計算機向き結合回路網 Mandala の通信機能について評価する.

- (14) IEEE 標準バス Futurebus のバスアービタの性能評価 山本 欧 (慶大)
 【概要】並列計算機上に実装された Futurebus バスアービタについて, 実測データによる解析および理論解析の両面から性能評価を行う.

* 21日の研究会終了後, 簡単な懇親会を行います.
 * IEEE Computer Society Tokyo Chapter 協賛

◆ 第75回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 7件)

(主査: 谷内田正彦, 幹事: 尺長 健, 富田文明)

日 時 平成3年11月22日(金) 10:00~16:30

会 場 千葉大学 工学部 電気系大会議室

〔千葉市弥生町 1-33, JR (総武線): 西千葉下車, 徒歩5分. Tel. 0472 (51) 1111 内 3151 (井宮)〕

議 題

—10:00~12:15—

- (1) 距離情報による3次元自由曲面の運動計測法 小笠原倫利, 川嶋稔夫, 青木由直 (北大)
 【概要】特徴量抽出の困難な3次元自由曲面の運動をスパースな距離情報を用いて連続計測する手法について報告する.

- (2) 観測値の信頼度に基づく多次元カルマンフィルタと動き場推定への応用 毛利 忠, 武川直樹 (NTT)
 【概要】ビジョンに適用するカルマンフィルタの多次元適応化と観測系の信頼度に基づく制御により最適化をはかる.

- (3) 正射影対応点による移動物体の認識方式 鎌田 洋, 久保田孝 (富士通研)
 【概要】移動物体の対応点による新認識方式を述べ, 平面上の移動物体はさらに少ない対応点で認識できることを示す.

—13:30~16:30—

- (4) 3次元運動推定時におけるモデルの位置と姿勢の自動修正 山本正信 (電総研)
 【概要】3次元形状モデルの位置・姿勢の修正と3次元運動の推定を同時に行う手法を述べる.

- (5) 動画像からの歩行者検出法 塩 昭夫 (NTT), J. スクランスキー (University of California)
 【概要】画像の濃度情報, 動き情報, および移動物体モデルに基づいて, 歩行者を自動検出する方法を提案する.

- (6) L角対を用いた6自由度復元と物体認識 深田陽司 (三菱電機)
 【概要】2本のエッジで構成されるL角の対を用いて, 単眼視による物体の6自由度復元・認識を行う手法を述べる.

- (7) 全方位視覚センサ COPIS を用いた移動物体の発見と衝突回避発表者
 八木康史 (阪大), 川戸慎二郎 (三菱電機), 辻 三郎 (阪大)
 【概要】全方位視覚センサ COPIS を用い, 室内などを移動する物体を発見し, 衝突の危険性がある場合は衝突回避を行い, 物体の運動および位置情報を獲得する.

◆ 第24回 アルゴリズム研究会

(発表件数: 6件)

(主査: 西関隆夫, 幹事: 浅野孝夫, 岡本栄司, 安浦寛人)

日時 平成3年11月22日(金) 13:00~17:00

会場 神戸大学 工学部 LR104室(工学部玄関横)

[神戸市灘区六甲台町1-1, 阪急電鉄: 六甲下車, 徒歩15分, または市バス:(16系統) 六甲ケーブル下行で神大教養部前下車(5分), または(36系統) 鶴甲団地行で神大本部・工学部前下車(5分), 徒歩2分.

Tel. 078 (881) 1212]

議題

(1) 系列間距離を直接計算することと誤り訂正構文解析法で計算することの比較 田中栄一(神戸大)

[概要] 系列と系列の集合との距離を直接計算することと誤り訂正構文解析法で計算することを比較する. 木にも言及.

(2) Fault Tolerance of Han-Finkel's Scheme for Disseminating Information

Kimiko Kanai, Yoshihide Igarashi, Kinya Miura (群馬大)

[概要] We discuss fault tolerance of Han-Finkel's scheme for disseminating information in a faulty processor network.

(3) Universal Graphs for Graphs with Bounded Path-Width

Astushi Takahashi, Shuichi Ueno, Yoji Kajitani (東工大)

[概要] パス幅が高々 k と限られたグラフの族に対する普遍グラフの枝数の最小値が $\Theta(kn \log(n/k))$ であることを示す.

(4) リアプノフ関数の構成と動的凸包問題について 太田有三, 今西 浩, 野々村剛, 羽根田博正(神戸大)

[概要] 計算機によるリアプノフ関数の自動構成問題とそれに関連する多次元動的凸包問題とその解法について述べる.

(5) 平面上の n 点から k 個の最良点対間距離を求める解法 加藤直樹(神戸商大), 岩野和生(日本IBM)

[概要] 平面上の n 点によって定まる $n(n-1)/2$ 個の点対間の距離から k 個の最大あるいは最小のものを効率よく見つける解法を示す.

(6) 3次元ボロノイ図構成算法の数値的安定化 稲垣 宏(豊田高専), 杉原厚吉(東大), 杉江 昇(名大)

[概要] 3次元ボロノイ図を構成するための, 計算誤差に強い算法を提案し, 計算機実験によりその有効性を確認した.

◆ 第79回 人工知能研究会

(発表件数: 8件)

(主査: 石塚 満, 幹事: 原口 誠, 松原 仁, 吉田裕之)

日時 平成3年11月26日(火) 10:20~16:30

会場 機械振興会館 地下3階 2号室(所在地は前記参照)

議題

—10:20~11:50—

(1) 知識洗練機構を備えた代替案提示相談システム 青山憲正, 古関義幸(日電), 林原広明(住友銀行)

[概要] 知識洗練機構を備えた代替案提示相談システムについて, その構成と実現方法を述べる.

(2) 信念とコミットメントの変更に関する時間推論 磯崎秀樹(NTT)

[概要] 過去の信念やコミットメントが関係している行為を支える時間推論の新しい仕組みを提案する.

(3) Multiple Analogy のメカニズム 脳園竜次, 内平直志, 本位田真一(IPA)

[概要] 複数のソース領域を用いる類推のメカニズムについて検討する.

—13:10~16:30—

(4) AAAI 91/IJCAI 91 報告 寺野隆雄(筑波大), 大沢英一(ソニー CSL), 諏訪正樹(日立)

西田豊明(京大), 西山高史(松下電工), 林 朗(九工大), 山村雅幸(東工大)

[概要] 今年7月にアメリカ・アナハイムで開催された AAAI 91 と, 8月にオーストラリア・シドニーで開催された IJCAI 91 の模様を報告する.

- (5) 例外を含む意味ネットワークの仮説に基づく管理法 佐藤雅弘, 伊藤英則 (名工大)
 〔概要〕 信念の in/out の概念を取り入れた意味ネットワークの表現法とその管理システムを提案する。
- (6) 人間の知識処理に対する考察 (その2) ～知能表現モデルの概要～ 藤井和之 (清水建設)
 〔概要〕 人間の知識処理を分析することにより, 知識を扱う能力 (知能) をモデル化する知能表現の概要を提案する。
- (7) プロダクションシステムを高速化する競合解消方法 市瀬 浩 (東洋通信機)
 〔概要〕 条件要素にマッチした作業記憶要素を整列順に扱うことにより, 競合解消および要素間比較処理を簡略化する。
- (8) インタリーブによるリアクティブ・プランニング 山田誠二 (阪大)
 〔概要〕 操作の成功確率に基づく実行/観測への切り換えタイミング決定法と, それを用いたプランニングを提案する。

◆ 第12回 人文科学とコンピュータ研究会

(発表件数: 10 件)

(主査: 杉田繁治, 幹事: 及川昭文, 小沢一雅, 洪 政国)

日 時 平成3年11月29日(金) 10:00~17:30

会 場 川崎市民ミュージアム 映像ホール

(川崎市中原区等々力 3049-1 (等々力緑地内), JR (南武線) または東急東横線: 武蔵小杉下車, 市営バスまたは東急バス: 市民ミュージアム下車, JR 川崎駅 (東口) よりはバス (26 番のりば): 市民ミュージアム行, Tel. 044 (754) 4500)

議 題 特集: ミュージアム

—10:00~12:30—

- (1) 博物館マルチメディアデータベースネットワークシステムの構成法 —データベース概念スキーマの設計— 有泉祐喜 (九州 NES), 碓崎賢一, 打浪清一 (九工大)
 〔概要〕 ビデオ等に記録した収蔵品の情報を, 博物館同志で互いにやりとりできるデータベースシステムについて述べる。
- (2) INS ネットを用いた高精細画像ネットワークシステム 堀口真寿, 菱山和利, 寺西俊晴, 向野 稔 (NTT)
 〔概要〕 高速デジタル通信回線を適用し, 高精細画像を含むマルチメディア情報を検索・伝送するシステムを紹介する。
- (3) CG 画像のホログラム化と展示への応用 大越 幹 (大日本印刷)
 〔概要〕 CG 画像からホログラムを作成する方法とそれを応用した展示システムの事例を紹介する。
- (4) ミュージアムからムゼオンへの回帰 —博物館におけるメディア活用の視点— 榎井喜孝 (ミュージアム工学研究所)
 〔概要〕 情報化が進む中で, コンピュータ等メディア活用の視点を, 博物館の新たな役割と共に述べたい。

—14:30~16:20—

● ミュージアムにおけるコンピュータ応用例

- (5) 徳島県立近代美術館におけるデータベースと教育普及活動への応用 吉原美恵子 (徳島県立近代美術館)
 〔概要〕 徳島県立近代美術館における, データベースを活用した教育普及活動の事例を紹介する。
- (6) 美術館とフィルム・ライブラリとコンピュータ 西田宏子, 重富滋子 (根津美術館)
 〔概要〕 商品としてのフィルム・ライブラリの仕事と, その効率を高める OA 化とは何かについて述べる。
- (7) 諏訪市博物館におけるコンピュータ利用 高見俊樹 (諏訪市教育委員会)
 〔概要〕 諏訪市博物館におけるコンピュータ利用の現状, 特に館内で行っている各種情報の提供と, 収蔵品管理システムについて報告する。
- (8) 企画展フロアレクチャーシステムの試み 濱崎好治 (市民ミュージアム)
 〔概要〕 来館者との対話のためのコンピュータ・プレゼンテーションと展示企画者の考え方をインタプリテーションする試行モデルを述べる。
- (9) 自然誌系博物館におけるパソコン利用例の一, 二 大場達之 (千葉県立中央博物館)

〔概要〕 住民参加による地域植物誌編纂にパソコンを用いて効果のあった事例と、画像データベースの試行例を報告する。

—16:20~17:00—

(10) 博物館と情報

中山和彦(筑波大)

〔概要〕 これからの博物館のあり方について、情報との関連を中心に述べる。

—17:00~17:30—

(11) 見学: 市民ミュージアム施設

*アート・ドキュメンテーション研究会協賛。

◆ 第64回 記号処理研究会

(発表件数: 5件)

(主査: 竹内郁雄, 幹事: 相場 亮, 小谷善行, 多田好克)

日 時 平成3年11月29日(金) 13:00~17:00

会 場 電気通信大学 西9号館 3階 情報工学科 AV ホール

〔東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1, 新宿駅より京王線: 調布(特急で2つ目, 15分) 北口下車, 徒歩15分。

Tel. 0424 (83) 2161〕

議 題

(1) プログラムを含む高品質ドキュメント作成システム Lisp WEB の開発 神林 隆 (NTT)

〔概要〕 literate programming の概念を Lisp に適用し, Lisp と Tex を融合させた Lisp WEB を開発したので報告する。

(2) PROLOG のオブジェクト指向機構 碓崎賢一 (九工大)

〔概要〕 PROLOG 処理系に付加機能として導入するオブジェクト指向機構の機能と実現手法を示す。

(3) ベクトル計算機による記号多項式計算 村尾裕一 (東大)

〔概要〕 数式処理における, 行列式等の多項式計算にベクトル計算機を利用する手法を示し, その広範な活用を提言する。

(4) Weak Pointer の拡張と実装 寺田 実 (東大)

〔概要〕 Lisp においてポインタを忘れる機構である Weak Pointer について, 拡張を提案し, 実装についても報告する。

(5) 遅延評価系における静的ゴミ集めについて 田中 聡, 寺島元章 (電通大)

〔概要〕 関数型言語の遅延評価系で翻訳時に生成オブジェクトの寿命を解析しその回収再利用を行う方法を提案する。

◆ ヒューマンインタフェース研究会

第40回 研究会の発表を下記のとおり募集いたします。奮ってご応募ください。なお、会場等詳細は12月号の本欄にてお知らせいたします。

日 程 平成4年1月16日(木)

会 場 東京

議 題 小特集: デザイン, 一般

発表申込締切 平成3年10月31日(木)

◆人工知能研究会

今後の研究会の予定は以下のとおりです。

- 第80回 平成4年1月16日(木)・17日(金) 於京大(開催場所が変更されました)*記号処理研究会と合同
- 第81回 平成4年3月5日(木)・6日(金) 於ICOT 特集: 計画・設計型知識システムとその基礎技術

*研究会に発表をご希望の方は、研究会発表申込書(8月号欄末添付)に発表題目と発表者名、50字以内の概要をご記入のうえ、学会事務局研究会担当までお申し込みください。

情報処理学会 第44回 全国大会実施要領

全国大会講演発表申込方法の改正について

—より多くの方に、より良い発表をしていただくために—

第43回全国大会（平成3年後期）からアブストラクトによる講演発表申込みの募集に改正しました。

より多くの希望者に、より良い発表をしていただく条件（執筆のための十分な準備時間がとれ、より新しい成果を講演原稿に反映できるようにする等）をいろいろと検討してきましたが、本原稿（カメラレディ）による募集方法では改善の余地がありませんので、踏み切ることになりました。

講演参加費の払込時期がアブストラクト提出時になり、時間的制約から提出された原稿の訂正ができなくなることや事務局の処理業務が若干増加する等の問題はありますが、会員の皆さまの便宜にかなない、ご希望に添うものでありますので、何卒ご協力をよろしくお願いいたします。

講演発表希望者は、実施要領を熟読のうえ、日程に従って所定の手続きを進めてください。

論文締切日の厳守を徹底しますので、論文等の提出は必ず期日までにお出しく下さい。一日でも遅れると発表できなくなりますので、掲載ご注意願います。

開催期日 平成4年3月17日（火）～20日（金）

会場 明治大学理工学部（川崎市多摩区東三田）

日程一覧 1. 講演申込書の送付

学会誌本号（Vol. 32, No. 10）掲載の講演申込書に記入して、応募規程 IV. の申込方法により **12月2日（月）までに（必着）** お送りください。なお12月2日に持参する方は、機械振興会館6階69号室にて受付けています。締切に遅れますと発表できなくなりますので、特にご注意ください。

2. プログラム編成委員会の開催

講演申込書を締切り次第、大会プログラムの編成および座長候補の推薦を行います。

3. 原稿用紙等の送付

12月中旬に事務局から「論文原稿用紙」等をお送りします。講演番号も同時に通知いたします。

4. 講演論文等の提出

講演論文原稿および登録原稿等を一括して **1月16日（木）までに**、学会事務局に必着するようご提出ください。

5. 大会プログラムを学会誌2月号（Vol. 33, No. 2）に特にいたします。発表者は特にご注意ください。

応募規程 I. 講演内容

1. 全国大会にふさわしい内容を備えたものとします。
2. 発表は日本語または英語とします。

II. 応募資格

1. 登壇発表者は申込時に情報処理学会個人会員であること。
2. 共同発表者は当学会個人会員であることが望ましい。
3. 平成3年度会費未納の会員は発表できません。
4. 電気、電子情報通信、照明、テレビジョン各学会会員は当学会会員と同様の取り扱いとします。ただし、奨励賞の表彰対象者にはなれません。

III. 講演論文該当分野

1. 情報科学一般
 - A. 一般

- a. 哲学, b. 歴史, c. 伝記, d. その他
- B. 社会
 - a. 規格, b. 標準化, c. 知的所有権, d. 社会問題, e. その他
- C. 教育
 - a. 情報科学・工学の教育, b. カリキュラム, c. コンピュータリテラシ, d. CAI, e. 教育工学, f. その他
- 2. 基礎理論及び基礎技術
 - A. 情報数学
 - a. 形式論理, b. オートマトン理論, c. 形式言語理論, d. 計算可能性の理論, e. 計算の複雑さ, f. アルゴリズム論, g. グラフ理論, h. 組合せ理論, i. ファジィ理論, j. 符号理論, k. 整数論, l. その他
 - B. 情報理論及び OR
 - a. 情報理論, b. 線形・非線形計画法, c. 動的計画法, d. 整数計画法, e. ゲーム理論, f. 待ち行列理論, g. その他
 - C. データ解析
 - a. 推定・検定, b. 確率モデル, c. 統計・確率計算, d. 多変量解析, e. その他
 - D. 数値計算
 - a. 誤差解析, b. 関数近似, c. 補間, d. 線形計算, e. 非線形方程式, f. 数値微積分, g. 常微分方程式, h. 偏微分方程式, i. 積分方程式, j. 極値問題, k. 最適化, l. 特殊関数, m. 数式処理, n. 乱数, o. その他
 - E. シミュレーション
 - a. 有限要素法, b. 境界要素法, c. 差分法, d. モンテカルロ法, e. その他
- 3. 人工知能及び認知科学
 - A. 基礎理論
 - a. 探索, b. 定理自動証明, c. 推論方式, d. 知識表現, e. 知識獲得, f. 非単調理論, g. 学習理論, h. コネクショニズム, i. その他
 - B. 人工知能システム
 - a. エキスパートシステム, b. ガイダンスシステム, c. エキスパートシステム作成支援ツール, d. ゲームプログラム, e. 演繹データベース, f. 知能ロボット, g. その他
 - C. 自然言語処理
 - a. 機械翻訳, b. 自然言語インタフェース, c. 対話システム, d. 形態素解析, e. 構文解析, f. 意味解析, g. 文生成, h. 談話理解, i. 文法, j. 辞書, k. その他
 - D. パターン認識
 - a. 音声認識, b. 話者識別, c. 画像理解, d. 物体認識, e. 文字認識, f. リモートセンシング, g. その他
 - E. 生体情報処理
 - a. 視覚, b. 聴覚, c. 神経モデル, d. ニューラルネットワーク, e. その他
 - F. 感性情報処理
 - a. 心理モデル, b. 行動モデル, c. 感情モデル, d. その他
- 4. データ処理
 - A. 音声処理
 - a. 音声分析, b. 音声合成, c. その他
 - B. 画像・図形処理
 - a. 画質改善, b. 帯域圧縮, c. 符号化, d. 曲面合成, e. トモグラフィ, f. 3次元処理, g. グラフィックス, h. アニメーション, i. その他
 - C. テキスト処理
 - a. ワードプロセッシング, b. 日本語入出力, c. 文書処理, d. 卓上出版, e. フォントデザイン, f. その他
 - D. マルチメディア処理
- 5. ソフトウェア
 - A. 基礎理論
 - a. プログラム理論, b. オペレーティングシステム理論, c. データベース理論, d. 形式的意味論, e. 算法論理, f. 検証理論, g. カテゴリ理論, h. 属性文法, i. 計算パラダイム, j. プログラム合成・変換, k. その他
 - B. プログラム言語及び仕様記述言語
 - a. 手続き型言語, b. 論理型言語, c. 関数型言語, d. オブジェクト指向言語, e. 並列処理言語, f. システム記述言語, g. 数式処理言語, h. シミュレーション言語, i. 仕様記述言語, j. その他

- C. 言語処理系
 - a. 構文解析, b. コード生成, c. 最適化, d. コンパイラ, e. インタプリタ, f. その他
- D. ツール
 - a. エディタ, b. デバッガ, c. ベリファイヤ, d. コンパイラジェネレータ, e. ウィンドウシステム, f. その他
- E. オペレーティングシステム
 - a. 記憶管理, b. 入出力管理, c. 障害管理, d. 通信管理, e. ファイル管理, f. ジョブ・タスク管理, g. 自動運転管理, h. 並列分散処理, i. 例外処理, j. 性能評価, k. その他
- F. データベース・情報検索
 - a. データモデル, b. データ言語, c. データベース設計, d. 質問処理, e. トランザクション処理, f. 一貫性制約, g. ファイル構成, h. 検索方式, i. 分散データベース, j. マルチメディアデータベース, k. その他
- G. プログラミング技術
 - a. データ構造, b. ガーベジコレクション, c. ハッシング, d. ソーティング, e. サーチング, f. その他
- 6. ソフトウェア工学
 - A. 開発技術
 - a. 設計理論, b. 要求分析法, c. 仕様記述法, d. プログラミング方法論, e. プロタイピング, f. 部品化・再利用技術, g. プログラム自動構成, h. その他
 - B. テスト・保守
 - a. プログラムのテスト・デバッグ, b. プログラム検証, c. 性能評価, d. プログラム解析, e. 保守運用管理, f. その他
 - C. ソフトウェアプロセス
 - a. プロセスモデル, b. プロセスプログラミング, c. 工程管理, d. その他
 - D. 開発環境
 - a. 構成理論, b. 分散開発環境, c. 文書化支援, d. その他
 - E. ヒューマンファクタ
 - a. マン・マシンインタフェース, b. 要員教育・プロジェクト管理, c. プログラミング行動, d. その他
- 7. ハードウェア
 - A. 基礎理論
 - a. 組合せ回路理論, b. 順序回路理論, c. 論理設計理論, d. レイアウトアルゴリズム, e. ハードウェアアルゴリズム, f. その他
 - B. 論理回路
 - a. 記憶回路, b. 演算回路, c. 制御回路, d. 誤り検出・訂正回路, e. テスト容易化回路, f. その他
 - C. デバイス
 - a. 論理デバイス, b. 記憶デバイス, c. 入出力デバイス, d. ASIC PLD, e. その他
 - D. アーキテクチャ
 - a. 汎用計算機, b. 専用計算機, c. スーパーコンピュータ, d. ワークステーション, e. 高級言語マシン, f. 非ノイマンアーキテクチャ, g. 並列アーキテクチャ, h. マイクロプログラム, i. フォールトトレランス, j. その他
 - E. 周辺・端末
 - a. 外部記憶, b. ディスプレイ装置, c. ハードコピー装置, d. 文字読取装置, e. 図形入出力装置, f. 音声入出力装置, g. その他
 - F. 設計技術及び設計自動化
 - a. 方式設計, b. 機能設計, c. 論理設計, d. レイアウト設計, e. テスト設計, f. 設計記述言語, g. シリコンコンパイラ, h. その他
 - G. 開発環境
 - a. 統合化ツール, b. 設計環境, c. 設計データベース, d. その他
 - H. テスト・検証
 - a. LSI テスト, b. ハードウェア設計検証, c. 性能評価, d. その他
- 8. ネットワーク
 - A. 通信技術
 - a. データ交換方式, b. 通信方式, c. 画像通信, d. トラヒック理論, e. ネットワークアーキテクチャ, f. プロトコル, g. プロトコル検証, h. その他
 - B. ネットワーク管理
 - a. 名前管理, b. 経路管理, c. 障害管理, d. その他

- C. コンピュータネットワーク
 - a. WAN, b. LAN, c. 電子会議, d. 電子掲示板, e. 電子メール, f. 分散処理, g. その他

9. システム

- A. 対話型システム
 - a. 構成理論, b. 方法論, c. CAE, d. CAD, e. CAM, f. CIM, g. CAI, h. 管制システム, i. 訓練システム, j. 意志決定システム, k. オフィスシステム, l. その他
- B. オンラインシステム
 - a. 予約システム, b. バンキングシステム, c. その他
- C. 制御システム
 - a. プロセス制御, b. 数値制御, c. 通信制御, d. 産業用ロボット, e. FA, f. その他
- D. システム評価
 - a. 評価技法, b. 評価指標, c. 評価モデル, d. その他

10. 信頼性と安全性

- A. 信頼性
 - a. 信頼性理論, b. 保全性理論, c. 信頼性評価, d. 故障解析, e. その他
- B. 機密保護
 - a. 暗号理論, b. 認証, c. 鍵管理, d. 鍵配送, e. セキュリティ, f. その他

11. 応用

- A. 企業等への応用
 - a. オフィス, b. 行政, c. 経営, d. 金融, e. 情報サービス, f. 生産管理, g. 計算機センタ運営, h. 教育, i. その他
- B. 工学等への応用
 - a. 航空・宇宙, b. 機械, c. 土木, d. 建築, e. 都市, f. 電気・電子, g. 計測, h. 生物, i. 物理, j. 化学, k. 原子力, l. 輸送・交通, m. 医学・歯学, n. その他
- C. 芸術等への応用
 - a. 音楽, b. 絵画, c. 商業デザイン, d. その他
- D. その他への応用
 - a. 自然科学, b. 社会科学, c. 人文科学, d. 障害者補助, e. その他

IV. 申込方法

1. 本号会告のページ掲載の「**全国大会講演申込書**」に必要事項を記入して**12月2日（月）までに（必着）** 申込むこと。
2. 講演申込は講演申込書および講演参加費を添えて申込むこと。
なお、連続発表を希望される場合は、別紙にて標題、講演者名および発表順番を明記し、まとめて送付すること。

V. 申込件数

1. 登壇発表は原則として1人1件とします。
2. 2件以上になる場合は、1件ごとに発表料が必要です。また、別紙にて標題、発表分野を明記し、まとめて送付すること。

VI. 講演参加費

1. 1件につき、会員は**7,000円**、学生は**4,000円**です。
2. 講演申込書を提出する際、同時に納入してください。なお、納入後、発表申込を取消されても返金できませんのでご注意ください。

VII. 論文原稿提出

1. 論文原稿は、**1月16日（木）（必着）**までに提出してください。
2. 論文は日本語または英語とします。
3. 論文抄録を「学会発表データベース（第一系）、学術情報センター」に入力しますので、所定の用紙および記入要領に従って記入のうえ論文と一緒に提出してください。なお、著作権は学会と共有です。
4. ワープロ、タイプで作成した原稿はプリントした原文をお使いください。
5. **論文原稿提出後の訂正は一切取扱いません。**よく推敲して提出してください。
6. 論文原稿の返却はいたしません。

VII. 論文の採否

講演論文の採否は大会運営委員会（プログラム編成委員会）が決定する。採択しないものは、例えば次のような場合である。

1. 論文の内容が著しく不十分なもの。
2. 内容が商業宣伝に偏したもの（極端な商品名の引用には注意する）。
3. 同一または類似の発表がなされており、かつ前進がないもの。
4. 応募規程に違反するもの。
5. 提出期限に遅れたもの（次回への応募をお薦めします）。

IX. 論文集の配布

発表者には講演論文を含んだ論文集1冊を事前に郵送します。

X. 発表論文の別刷はいたしません。

XI. 発表当日の講演者心得

1. 講演の始まる前に、必ず自分の発表会場の講演者受付で、出席の確認を受ける。
2. 必ず前の講演者の講演時間中には、座長席の隣に設けられた講演者控え席で待機する。
3. 一般講演の時間は、質疑を含めて15分間とします（都合により13分間のセッションもあります）。講演中でも時間切れで打ち切ります。
4. 講演終了予定時刻の5分前および3分前に座長補佐がベルで合図します。
5. 講演の代理（読）は認めません。

XII. 申込先及び問合せ先

（社）情報処理学会 全国大会係

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (3505) 0505

小規模国際会議論文募集

会議名	ソフトウェア工学小規模国際会議 '92 Joint Conference on Software Engineering '92
共 催	情報処理学会 ソフトウェア工学研究会 (IPSJ SIGSE) 韓国情報科学学会 ソフトウェア工学研究会 (KISS SIGSE)
協 賛	情報処理学会 (情報システム研究会 申請中) IEEE 東京支部 Computer Society 電子情報通信学会 (ソフトウェアサイエンス研究会 申請中)
日 程	1992年3月26日(木), 27日(金)
場 所	Seoul (韓国) (会場等の詳細は1992年1月号掲載)

論文応募要領

分 野	要求定義, ソフトウェア設計, ソフトウェア保守, テスト, 分散開発環境, PWS, データベース, オブジェクト指向, プロセスプログラミング, グループウェア, CASE ツール, エキスパートシステム, ユーザインタフェース, 品質保証, 情報システムの構築などソフトウェア工学全般に関する分野。
公用語	英 語
応 募	A4判2枚(1000語)以内のアブストラクト5部(英文, ハードコピー)を下記に送付
スケジュール	アブストラクト応募締切 1991年11月1日(必着) 採否通知 1991年11月15日(発送) カメラレディ原稿締切 1992年2月7日(着) * (英文2部 A4判で8ページ以内)
送付先	162 東京都港区赤坂 2-17-51 日本ユニシス(株) (LK-2) 研究開発部 峰尾欽二 Tel. 03 (3266) 7513 FAX 03 (3235) 1632

情報処理学会第44回全国大会
講演申込書

受番	付号	
講番	演号	

掲載ページ	
-------	--

第44回全国大会に下記により講演申込をいたします。

標 題 注1)						
フリガナ 注1)						
著 者 名						
所 属 名						
フリガナ			← 注) 講演者を○印で表示してください。(氏名の左上) 講演者会員種別 (○印で囲む) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>正会員</td> <td>学生会員</td> </tr> </table>		正会員	学生会員
正会員	学生会員					
著 者 名						
所 属 名						
論文該当分野 注2)	(1)	(2)	(3)	*1 (注3) *2 (注3)		

- 注1) 学会誌発表および論文集掲載の「プログラム」は本欄記入事項により作成しますので、題目、氏名はみだりに変更しないでください。
- 注2) 論文募集要領の論文該当分野表を参照し、できるだけふさわしい分野をご記入ください。優先順位順に複数分野を記入してけっこうです。(例“ソフトウェア工学分野, 開発環境”の場合, 6Dと書く)
- 注3) 複数件講演申し込みをされる方は他の申込書の論文該当分野を上欄の *1 または *2 に記入してください。

論文要旨 (300字程度)

第44回 全国大会講演発表用原稿用紙送付宛名

◎ 原稿用紙等の送料として郵便切手 175 円を添付のこと。

講演番号		(楷書でハッキリ記入してください)
原稿用紙送付先	〒 _____	
機 関・部 課 名	_____	
氏 名	_____ 殿	
Tel.	_____ (ex. _____) FAX _____	

第 44 回 全国大会講演参加費送金連絡票

この連絡票は講演参加費の入金を正確に把握するためのものです。下記の点に注意してご記入願います。

1. 1件につき、会員は7,000円、学生は4,000円（講演者には参加章・プログラム・論文集1冊を事前発送します）。
2. 講演不採択の場合は、講演参加費を返却しますが、申込後取消しの場合は返却しません。
3. 講演参加費は、講演申込書に現金を添えて学会事務局に持参くださるか、あるいは郵便振替を原則とします。
4. 事務の簡素化のため、現金持参以外の方は全てこの用紙に記入し、機関ごとにとまとめてご提出ください。
5. 銀行振込は、所定の銀行口座（三菱銀行虎ノ門公務部情報処理学会講習会普通口座 No. 0003774）に原稿送付と同時にご送金ください。
なお、座長、プログラム編成委員および現地実行委員は無料です。
但し、2件以上の場合には1件増すごとに4,000円か7,000円をご送金ください。
注）ご送金は登壇発表者名をお願いします。
6. 2件以上まとめて支払う場合には講演者氏名欄に各講演者名をもれなくご記入ください。（共著者の氏名は記入しないでください。）
7. 支払い件数が多く、下の票に講演者氏名が書ききれない場合は別にリストをつけてください。
8. 講演参加費は消費税対象外です。
9. 講演参加費は平成3年12月2日までにお支払い願います。

講演 参加 費	4,000円	件	合計金額 円	講演 者 氏 名	○
	7,000円	件			○ ○
必要書類：請求書 通，納品書 通，見積書 通 ※必要のない方は空欄のままです。					
送金方法： <input type="checkbox"/> 郵便振替（東京 5—83484） ※該当個所にレ印を付けてください <input type="checkbox"/> 銀行振込 _____ 銀行 （専用銀行口座：三菱銀行虎ノ門公務部情報処理学会講習会普通口座 No. 0003774） 送金月日： 月 日 送金人名義：					
通信欄：					
(楷書でハッキリ記入してください)					
講演参加費 取扱者 連絡先 〒 _____					
機関・部課名 _____					
氏 名 _____ 殿					
Tel. _____ (ex. _____) FAX _____					

「マイクロコンピュータ・アーキテクチャ」 シンポジウムの開催について

標記シンポジウムを「計算機アーキテクチャ研究会」と「マイクロコンピュータとワークステーション研究会」が主体となり開催いたします。下記要領により実施いたしますので、皆さま奮ってご参加ください。

日時 平成3年11月12日(火) 9:00~16:45
場所 機械振興会館 地下2階ホール
参加費 会員6,000円, 非会員9,000円, 学生1,000円, 論文集のみ4,000円
*参加費には、資料代が含まれています。
申込締切 平成3年10月25日(金)

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

セッション1 新方式アーキテクチャ (9:00~11:55)

- 2階層キャッシュメモリ内蔵1チップマルチプロセッサ
並列動作可能な共有2次キャッシュと複数のスーパスカラ型マイクロプロセッサを1チップ化し高性能を得た。
花輪 誠, 西井 修, 西向井忠彦, 鈴木 誠, 矢野 和男, 平木 充, 宿利 章二, 西田 高(日立)
- 動的データ駆動型プロセッサによる並列処理方式の検討
動的データ駆動方式に VLSI プロセッサの機能/負荷分散処理方式の検討例を評価結果と共に報告する。
金倉 広志, 宮田 宗一(シャープ)
- 2タイプアーキテクチャ (SIMD+Logic-in-Memory) を採用したファジィ推論専用プロセッサ
ファジィ推論向きのアーキテクチャ (SIMD+Logic-in-Memory) の考案によりファジィ推論 LSI を開発した。
佐々木 守, 上野 文男(熊本大), 片白 剛史(沖電気工業)
- デジタルファジィプロセッサ FP-5000
大容量のルールを高速に実行するデジタルファジィチップを開発した。推論速度は 10 MFLIPS である。
今江 文一(オムロン)

セッション2 RISC プロセッサ (13:00~16:45)

- 64ビット RISC 形マイクロプロセッサの構成
内蔵キャッシュを持つ RISC 形マイクロプロセッサの構成と2階層目の外部キャッシュの性能依存性を述べる。
西道 佳人, 山口 龍一, 三宅 二郎, 枝松 壽一, 渡里 滋, 國信 茂郎(松下電器)
- V_R 4000
64ビットアーキテクチャおよびスーパーパイプライン構造などを中心に V_R 4000 アーキテクチャを解説する。
桑田 明(日本電気)
- PA-RISC とそのインプリメンテーション
スケラビリティと世界最高性能を実現した PA-RISC とそのインプリメンテーションを解説する。
清水 千博(YHP)
- マルチプロセッサ用チップセット i860™ XP/82495 XP/82490 XP
最大 512KB の2次キャッシュを持つマルチプロセッサシステムを構成できる。i860™ XP ファミリの紹介。
高橋 恒雄(インテル)
- MC 88110 の概要
シンメトリック・スーパースケーラ, 3次元グラフィックス, マルチプロセッシング等の機能を搭載した RISC
Michael Allen (Motora Inc.)

「マイクロコンピュータ・アーキテクチャ」シンポジウム
参加申込書

平成 3 年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○でかこむ)

正会員, 賛助会員 6,000 円 非会員 9,000 円 学生会員 1,000 円

*参加費には, 資料代が含まれています。

○資料のみ (4,000 円, 送料込) _____冊

○送金方法

* _____円を a) 当日, 会場受付にて支払います。

b) _____月 _____日送金します。

* (b を選択した方のみご記入ください)

b-1) 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
(社)情報処理学会 シンポジウム係)

b-2) 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店	1013945	富士銀行虎ノ門支店	993632
三菱銀行虎ノ門公務部	0000608	太陽神戸三井銀行東京 営業部	4298739
住友銀行東京公務部	10899	三和銀行東京公務部	21409
名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会			

・送金先銀行名 _____銀行宛

・送金取扱銀行名 _____銀行 _____支店より

・送金人名義 _____様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は 1 枚 1 人としてください。(コピーで申し込むこと)

○申込先

情報処理学会 シンポジウム係 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F

Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

機関名 _____

フリガナ
氏 名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) FAX _____

「B-ISDN 時代におけるマルチメディア通信と分散処理シンポジウム」 開催について

標記シンポジウムを下記要領で開催することになりましたので、多数の方のご参加をお願いします。

記

日 時 平成3年11月14日(木) 9:20~17:00
 場 所 機械振興会館大ホール(地下2階)
 参加費 会員6,000円, 非会員9,000円, 学生1,000円(論文集のみ4,000円, 送料込)
 申込締切 平成3年10月31日(木)
 申込先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
 (社)情報処理学会 シンポジウム係
 Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

挨拶 (9:20~9:30) 河岡 司 (NTT)
司会 滝沢 誠 (電機大)
白鳥 則郎 (東北大)

招待講演 「コミュニケーションと人工知能」(9:30~10:30)

セッション1 AI技術とマルチメディア通信・分散処理

(1) 「画像処理のための分散協調推論モデル」(10:30~11:00) 松山 隆司 (岡山大)

(2) 「ネットワーク型教育支援システムの遠隔教育への適用に関する一考察」(11:00~11:30)
福島 学, 浮貝 雅裕 (千葉工大), 木下 哲男 (沖電気), 菅原 研次 (千葉工大)

(3) 「分散協調マルチエージェント型知的通信網」(11:30~12:00) 岸本 了造 (NTT)

一 昼 食 (12:00~13:00) —

司会 菅野 政孝 (NTT データ通信)

招待講演 「マルチベンダ・インテグレーション・アーキテクチャ」(13:00~14:00) 高木 明啓 (NTT)
司会 松方 純 (宇宙研)

招待講演 「インテリジェントネットワークの研究動向」(14:00~15:00) 水澤 純一 (東大)

一 休 憩 (15:00~15:30) —

セッション2 高速ネットワークとマルチメディア通信・分散処理

(1) 「間欠リンクを含むインターネットワーク」(15:30~16:00) 加藤 朗 (慶大)

(2) 「ATM技術を用いた高速基幹LAN Σ600による大規模・高速・マルチメディア通信ネットワークの実現」(16:00~16:30)
高田 治, 滝安 美弘, 小倉 敏彦, 杉村 久司, 寺田 松昭 (日立)

(3) 「分散 make に関する考察」(16:30~17:00) 住元 真司, 湯原 雅信, 岸本 光弘 (富士通研)

「B-ISDN 時代におけるマルチメディア通信と分散処理」シンポジウム

参加申込書

平成3年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○でかこむ)

正会員, 賛助会員 6,000 円 非会員 9,000 円 学生会員 1,000 円

* 参加費には, 資料代が含まれています。

○資料のみ (4,000 円, 送料込) _____ 冊

○送金方法 (該当するものを○でかこむ)

合計 _____ 円を

a) 当日, 会場受付にて支払います。

b) 現金書留で _____ 月 _____ 日送金します。

c) 銀行振込 (いずれも普通預金口座) で

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. 第一勧銀虎ノ門支店 1013945 | 4. 富士銀行虎ノ門支店 993632 |
| 2. 三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 | 5. 太陽神戸三井銀行東京営業部 4298739 |
| 3. 住友銀行東京公務部 10899 | 6. 三和銀行東京公務部 21409 |

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

・送金人名義 _____ 様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は1枚1人としてください。(コピーで申し込むこと)

○申込先・送金先 (FAX も可)

情報処理学会 シンポジウム係 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル3F

Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

機関名 _____

フリガナ

氏 名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) FAX _____

グラフィクスと CAD 研究会設立 10 周年記念

「グラフィクスと CAD シンポジウム」開催について

標記シンポジウムに関して、多数の論文をご応募いただき誠にありがとうございました。論文審査の結果、下記要領でシンポジウムを開催することになりました。多数の方々のご参加をお願いいたします。

記

日 時	平成 3 年 11 月 20 日 (水) 午前 9 時～午後 5 時 15 分 (午後 5 時 30 分より懇親会) 11 月 21 日 (木) 午前 9 時～午後 5 時
場 所	機械振興会館 大ホール (地下 2 階)
参 加 費	正会員 20,000 円, 非会員 30,000 円 (いずれも論文集および記念出版物を含む) 学生会員 3,000 円 (論文集のみ) 懇親会参加費 2,000 円 (参加申し込みと同時に申し込みください。) 資料 (論文集と記念出版物のセット) のみは, 10,000 円 (送料込み)。
申込締切	平成 3 年 11 月 8 日 (金) (定員 150 名になり次第締め切らせていただきます。資料のみの方は, 印刷部数に限りがありますので, なるべく早めにお申し込みください。)

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

[第 1 日 11 月 20 日 (水) (9:00~17:15)]

開 会 (9:00~9:10) 司会 西原 清一 (筑波大)
揆 撈 中嶋 正之 (東工大)

セッション 1 文書図面の生成・編集 (9:10~10:00) 座長 廣瀬 通孝 (東大)
● LATEX をベースとした文書と図形作成支援システムの作成と利用 穂坂 衛, 斉藤 剛 (電機大)
● 学術論文の文書作成における図形の生成処理および貯蔵について 斉藤 剛, 穂坂 衛 (電機大)
— 休 憩 (10:00~10:20) —

セッション 2 形状モデリング (10:20~12:00) 座長 柿本 正憲 (富士通研)
● Gregory 曲面の特異点を回避した有理 Bézier 曲面近似 植田 健治 (リコー)
● 仮想空間における立体形状モデリング 荒川 佳樹 (通信総研)
● 3次元スケッチシステムの開発 古島 終作, 金井 理, 高橋 秀智 (東工大)
● 非多様体形状モデリングと例外処理 山口 泰, 木村 文彦 (東大)
— 昼 休 (12:00~13:00) —

招待講演 (13:00~14:00) 司会 岡田 健二 (リコー)
「マルチメディア・システムの動向」 鈴木 則久 (日本 IBM)

セッション 3 マルチメディア・ユーザインタフェース (14:00~14:50) 座長 村木 茂 (電総研)
● マルチメディア WS の表示アーキテクチャに関する考察 上原 宏敏 (松下電器)
● 知的インタフェースにおけるメッセージの分析と課題 間瀬 健二, 福本 雅明, 末永 康仁 (NTT)
— 休 憩 (14:50~15:10) —

パネル討論 (15:10~17:15) 司会 服部 幸英
「10年後の CG と CAD —10周年を記念して」 西田 友是 (福山大), 河口洋一郎 (日本電子専門学校),
末永 康仁 (NTT), 綾 日天彦 (三井造船システム技研)
— 懇親会 (17:30 より, 機械振興会館内) —

[第 2 日 11 月 21 日 (木) (9:00~17:00)]

セッション 4 CAD システム (9:00~10:40) 座長 鈴木 宏正 (東大)
● 構想設計 CAD 「コンセプティブデザイン」 川島 泰正, 野中 士郎, 徳増 眞司, 石川 貴之, 富田 健一 (日立)
● 対話設計環境における支援のための「設計デーモン」 石川 貴之, 川島 泰正 (日立)
● 機械設計支援用知識ベースの構築法について 米山 正樹, 竹田 好晴, 小林 広明, 中村 維男 (東北大)
● 機械設計向き記述言語に関する研究 森 秀之, 日向 一弘, 小林 広明, 中村 維男 (東北大)

— 休憩 (10:40~11:00) —

セッション 5 レンダリング (11:00~12:15)

座長 大野 義夫 (慶大)

- 3次元コンピュータグラフィックスによる頭髮表現 安生 健一, 宇佐美芳明, 栗原 恒弥 (日立)
- 直方体受光面を用いた天空光モデル

馬場 雅志, 山中 毅, 金田 和文, 中前栄八郎 (広島大), 西田 友是 (福山大)

- 高信頼・高速, 隠線・隠面消去方式 —二次元スペースモデルの応用— 大沢 晃 (日立)
- 昼 休 (12:15~13:10) —

記念講演 (13:10~13:50)

司会 間瀬 健二 (NTT)

「CG による江戸城の復元」

杉本 和敏 (日本IBM)

セッション 6 人工現実感・ハードウェア (13:50~15:05)

座長 小堀 研一 (大阪工大)

- 人工現実感による形状加工変形方式 三輪 道雄, 小山 隆正, 吹野 美和, 加藤 昌央 (松下電器), 高崎 美雪, 岡田晃市郎 (シルクラボラトリ)
- 人工現実感を応用した運航管制方式の提案 (ニアミスの防止手段として) 鬼塚 武郎
- 航行めがねワールド: 人工テレパシーと人工現実感による RAR 概念 大座畑重光 (マッキンテリジェンス)

— 休憩 (15:05~15:20) —

セッション 7 レンダリング用ハードウェア (15:20~16:10)

座長 安田 孝美 (名大)

- PHIGS の構造体を処理するジオメトリ演算部の並列アーキテクチャについて

松本 尚, 川瀬 桂, 森山 孝男 (日本IBM)

- パソコン用グラフィクスエンジンと放射型影付け手法による準リアルタイムアニメーション

森 健一, 土井美和子, 千本 浩之 (東芝)

セッション 8 アニメーション・可視化 (16:10~17:00)

座長 福井一夫 (NHK)

- 実験結果, 解析結果のアニメーション表示 谷野 郁子, 堀越 清視, 山下かほる (鹿島建設)
- 渦場による炎の延焼の CG シミュレーション 村岡 一信 (盛岡短大), 渡邊 俊臣 (日立電子), 守田 空悟 (京セラ), 千葉 則茂, 三浦 守 (岩手大)

本会協賛等の行事案内*

システム制御情報チュートリアル講座 '91 システム科学の基礎と応用

平成3年11月26日(火)~28日(木)

コミュニティプラザ大阪

平成4年1月27日(月)~29日(水)

東京・ダイヤモンド社

第6回「大学と科学」公開シンポジウム

平成4年1月27日(月)~28日(火)

東京・経団連ホール

第13回 計算電気・電子工学シンポジウム

平成4年3月30日(月)~31日(火)

東京・日本科学技術連盟

第9回 センシングフォーラム

平成4年4月7日(火)~8日(水)

東京工業大学

'92 新素材展

平成4年5月19日(火)~22日(金)

千葉・幕張メッセ

* 詳細は本号会議案内欄参照

「グラフィクスと CAD シンポジウム」

参加申込書

平成 3 年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○でかこむ)

正会員, 賛助会員 20,000 円, 非会員 30,000 円, 学生会員 3,000 円

* 参加費には, 資料代が含まれています。

懇親会 2,000 円

○資料のみ (10,000 円, 送料込) _____冊

○送金方法 (該当するものを○でかこむ)

合計 _____円を

a) 当日, 会場受付にて支払います。

b) 現金書留で _____月 _____日送金します。

c) 銀行振込 (いずれも普通預金口座) で

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. 第一勧銀虎ノ門支店 1013945 | 4. 富士銀行虎ノ門支店 993632 |
| 2. 三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 | 5. 太陽神戸三井銀行東京営業部 4298739 |
| 3. 住友銀行東京公務部 10899 | 6. 三和銀行東京公務部 21409 |

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

・送金人名義 _____様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は 1 枚 1 人としてください。(コピーで申し込むこと)

○申込先・送金先 (FAX も可)

情報処理学会 シンポジウム係 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F

Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

機関・
部課名 _____

フリ ガナ
氏 名 _____

_____ 殿 (_____ 学会名)

Tel. _____ (ex. _____) FAX _____

「知識のリフォーメーション—知識表現と学習の新方向—」

シンポジウム開催について

標記のシンポジウムを企画したところ多数の申し込みがあり、審査の結果、下記のようにプログラムを決定しましたのでお知らせいたします。「知識のリフォーメーション」とは、知識の効率的な表現・利用のための変化を計算機自らに行わせることであり、知識の組織化・抽象化、事例ベース推論、学習、遺伝アルゴリズムなどさまざまな立場からアプローチを図りたいと考えています。奮ってご参加ください。

日 時 平成3年11月27日(水) 9:30~17:20
28日(木) 9:30~17:00

場 所 東京大学山上会館・大会議室

主 催 情報処理学会人工知能研究会

協 賛 人工知能学会、電子情報通信学会人工知能と知識処理研究会

参 加 費 正会員(情報処理学会、電子情報通信学会、人工知能学会) 10,000円、非会員 15,000円、学生会員 5,000円(論文集のみ 5,000円、送料込)

申込締切 11月12日(火)(定員120名に達し次第締め切らせていただきます)。

申 込 先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
(社)情報処理学会「知識のリフォーメーション」シンポジウム係

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

第1日(11月27日(水))

シンポジウム実行委員長挨拶(9:30~9:35)

石塚 満(東大)

Session 1 知識獲得(9:35~11:05)

座長 戸沢 義夫(日本IBM)

- タスク・モデルに基づく問題解決部品の体系的な抽出一部品整理のための分類属性の同定—

中村 祐一, 堀 雅洋(日本IBM)

- CADシステムにおけるモデリングのための知識構造

石川 孝, 寺野 隆雄(筑波大)

- 深い知識間の相補性に基づく知識コンパイラの枠組み

鳥越 章夫, 山口 高平(静岡大)

Session 2 視覚情報による推論(11:20~12:20)

座長 戸沢 義夫(日本IBM)

- 視覚情報を利用した事例ベース推論方式

好川 哲人(ASTEM)

- イメージを用いた推論および学習—図を用いた算術解法の機械化—

沼尾 正行(東工大)

Session 3 サーベイ(13:20~14:20)

座長 石塚 満(東大)

- 遺伝アルゴリズム研究の最新動向

小長川明彦(日本電気)

Session 4 遺伝アルゴリズム(14:35~15:35)

座長 小長谷明彦(日本電気)

- ニューラルネットワークからの知識抽出に関する基礎研究—GAによる引込領域表現法—

鈴木 恵二, 嘉数 侑昇(北大)

- 形質遺伝を重視したGAに基づくTSPの解法

小野 貴久, 山村 雅幸, 小林 重信(東工大)

Session 5 知識の組織化(15:50~17:20)

座長 水谷 博之(東芝)

- 知識のリフォーメーションと概念構造の生成

吉田 健一, 元田 浩(日立)

- 並列オブジェクトモデルによる推論とコネクショニスト・ハイパーネットワーク

西村 和幸, 生天目 章(防衛大)

- 自己学習型エージェントモデル(自己成長型知識ネットワーク構築のための基礎モデル)

塚本 義明, 生天目 章(防衛大)

第2日(11月28日(木))

Session 6 説明に基づく学習(9:30~11:00)

座長 沼尾 正行(東工大)

- 経験に基づく学習機能を備えた仮説推論システム

牧野 俊朗, 石塚 満(東大)

- 拡張 EBL におけるメタ領域理論の利用と制御不能問題への接近

山村 雅幸, 郭 堅, 小林 重信(東工大)

- 一般化論理プログラムの部分計算による論理回路の変換ルールの合成法

馬淵 浩司, 赤間 清, 青木 由直 (北大)

Session 7 招待講演 (11:15~12:15)

座長 松原 仁 (電総研)

- Representations and Problem Solving

安西祐一郎 (慶大)

Session 8 知識の抽象化 (13:15~14:45)

座長 吉田 裕之 (富士通研)

- モデルの照合によるトークン列からの規則抽出手法の検討 倉島 顕尚 (東大), 安達 淳 (学情センター)

- バイアスを用いたマクロ・オペレータの生成

山口 智浩, 辻 三郎 (阪大)

- 一般化に基づく類推の論理プログラミングによる実現 岩山 登, 佐藤 健, 有馬 淳 (ICOT)

Session 9 パネル討論「知識のリフォーメーション」(15:00~17:00)

司会 松原 仁 (電総研)

パネリスト 原口 誠(東工大), 山田 誠二(阪大), 橋田 浩一 (ICOT), 山口 高平 (静岡大)

学会誌送本先の住所等の変更届について (お願い)

勤務先, 自宅住所に異動のある方は, 必ず所定の「変更連絡届」用紙 (本号末尾に添付) にて氏名, 会員番号を付し, 早速にご連絡ください. 異動の受付は毎月 20 日に締切り, 翌月号から変更いたします. 21 日以降受付分の変更は翌々月号からとなりますのでご留意ください.

「知識のリフォーメーション」シンポジウム
参加申込書

平成 3 年 日 月

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費（該当するものを○でかこむ）

正会員，賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 5,000 円

*参加費には，資料代が含まれています。

○資料のみ（5,000 円，送料込） _____ 冊

○送金方法

- * _____ 円を a) 当日，会場受付にて支払います。
- b) _____ 月 _____ 日送金します。

*（b を選択した方のみご記入ください）

b-1) 現金書留（送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
（社）情報処理学会 シンポジウム係）

b-2) 銀行振込（いずれも普通預金口座）

第一勧銀虎ノ門支店	1013945	富士銀行虎ノ門支店	993632
三菱銀行虎ノ門公務部	0000608	太陽神戸三井銀行東京 営業部	4298739
住友銀行東京公務部	10899	三和銀行東京公務部	21409
名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会			

- ・送金先銀行名 _____ 銀行宛
- ・送金取扱銀行名 _____ 銀行 _____ 支店より
- ・送金人名義 _____ 様

*請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通，見積書 通，納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は 1 枚 1 人としてください。（コピーで申し込むこと）

○申込先

情報処理学会 シンポジウム係 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F
Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

.....
(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

所属名 _____

フリガナ
氏 名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) FAX _____

会
告

「利用者指向の情報システム」シンポジウム 開催について

情報システムが個人から一般社会にいたるさまざまな組織に広く普及・浸透してきた今日、利用者を指向した情報システムをいかに実現するかが重要な課題となっています。この課題に取り組むには、組織と情報システム双方における情報の生産・流通・利用過程の絡みを幅広い視点から捉えて、情報システムの設計と構築を論じる必要があります。

以上の観点から、本シンポジウムでは、利用者指向の情報システムの計画・分析・設計・評価の方法論、ならびにその具体的な適用事例や研究動向、開発事例などについて、発表・討論を行う予定です。この問題に関心を持つ研究者、利用者、設計・開発者、運用者の方々のご参加をお願いいたします。

日 時 平成3年11月29日(金) 9:40~19:00 30日(土) 9:40~16:20
場 所 日本ユニシス本社(107 東京都港区赤坂 2-17-51) Tel. 03 (3585) 4111 (代)
 地下鉄 千代田線赤坂下車5番出口より徒歩5分
 都営バス(都 01) 新橋駅発渋谷駅行(六本木経由) 赤坂2丁目下車徒歩5分
参加費 正会員 10,000円, 非会員 15,000円, 学生会員 1,500円(論文集のみ 5,000円)
懇親会 発表者やパネラとの個別討論や参加者どうしの親睦の場です。奮ってご参加ください。会費 3,000円
 (参加費と一緒に申し込みください。)
申込締切 平成3年11月15日(金)

~~~~~プログラム~~~~~

第1日 11月29日(金)

開会の辞 (9:40~9:50)

伊吹 公夫(東京工大)

招待講演 (9:50~10:50)

司会 伊吹 公夫(東京工大)

- 情報システムにおける標準化の諸問題

高橋 茂(東京工大)

—休憩(10分)—

セッション 1 (11:00~12:30)

座長 西原 良一(日本ユニシス)

- オープンシステム環境における統合 OA システムの開発と運用
- 企業国際トライアングル網の構築
- これからの企業内情報システムについて

渡辺 隆, 二階堂徳也(JR 総研)

安藤 均(NTT)

小西 尚武(東レ)

—昼食(60分)—

セッション 2 (13:30~15:00)

座長 高橋 富夫(富士通)

- カード操作ツールを用いた要求分析と機能設計の事例研究—共通問題「在庫管理システムの作成」の設計—

土屋 光一, 塩見 彰陸, 竹田 尚彦, 河合 和久, 大岩 元(豊橋技科大)

- エキスパートシステムを適用した利用者指向の情報システムの開発について

上西 勝也(関西電力)

- コンピュータマッピングをベースとしたガス本支管設計システムの開発について

中津川 淳, 安藤 宜明(東京ガス)

—休憩(20分)—

パネル討論会 (15:20~17:20)

司会 鷹野 澄(東大)

- 情報システム設計と新しい情報技術

稲泉 成彦(日本ユニシス), 東明佐久良(東京ガス),

竹下 亨(日本 IBM), 橋本 茂司(東レ)

—休憩(10分)—

懇親会 (17:30~19:00)

第2日 11月30日(土)

セッション 3 (9:40~11:10)

座長 松谷 泰行(多摩大)

- モデル記述言語 Object-Z の味見

谷津 弘一(日本ユニシス)

- 情報モデルをめぐる一考察—情報システムにおける情報表現の諸問題—

中嶋 聞多(日立)

- 大学における情報システム教育とそのカリキュラム「情報システムの教育体系の確立に関する総合的研究」

中間報告

浦 昭二(慶大), 神沼 靖子(帝京技科大)

— 休 憩 (10分) —

セッション 4 (11:20~12:20)

- 利用者指向手法による「総合 OA システム」の開発
- 電通マーケティング情報センター
— 徹底した利用者サービスが情報システムを活性化する —

座長 初瀬川 茂 (東芝)
山形 毅章 (西日本旅客鉄道)

柴田 亮介 (電通)

— 昼 食 (70分) —

セッション 5 (13:30~14:30)

- 日本語プログラミング環境のためのエディタの開発と評価
- 航行めがねによる人間行動実時間支援システムの構想

座長 槻木 公一 (JR 総研)
宮脇富士夫, 佐藤 邦弘 (姫路工大)
大座畑重光 (マッキンゼリジェンズ)

— 休 憩 (20分) —

セッション 6 (14:50~16:20)

- 中小企業におけるパソコン活用の方策
- 国文学研究支援のための情報システム
- SIS の現状と展望

座長 岩丸 良明 (太陽神戸三井総研)
古関 政 (群馬情報電子専門学校), 町田 庄吉 (プランニング)
安永 尚志 (国文学研究資料館)
米川 清 (三井情報開発), 会田 邦夫 (産能短大)

閉 会 (16:20)

「情報専門学科のコアカリキュラム—その内容、運用と問題点—」

シンポジウム開催について

「コンピュータと教育研究会」と「情報処理教育カリキュラム調査委員会」の共催による標記のシンポジウムを開催します。このシンポジウムは大学等における情報分野の専門教育のカリキュラム並びに個々の講義・実験・演習等の内容・方法・リソース等に関する実践経験の報告とそれに対する率直な討論を行い、専門的情報処理教育の質的向上を目指すものです。

プログラムは11月号に掲載いたします。参加をご希望の方は、下記の要領にてお申し込みください。多数の方々のご参加をお待ちしております。

日 時 平成3年12月13日(金)~14日(土) 9:30~17:00

場 所 機械振興会館大ホール (地下2階)

参加費 会員10,000円, 非会員15,000円, 学生1,500円, 論文集のみ5,000円
*参加費には、資料代が含まれています。

申込締切 平成3年11月22日(金)

連絡先 このシンポジウムに関する問合せは下記にお願いいたします。

有山 正孝 電気通信大学 情報工学科

Tel. 0424 (83) 2161 (Ext. 4141) FAX 0424 (82) 3055

中森真理雄 東京農工大学工学部 数理情報工学科

Tel. 0423 (81) 4221 (Ext. 541) FAX 0423 (87) 4624

「利用者指向の情報システム」シンポジウム

参加申込書

平成3年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000円 非会員 15,000円 学生会員 1,500円

*参加費には, 資料代が含まれています。

○懇親会費 (3,000円) _____名

○資料のみ (5,000円, 送料込) _____冊

○送金方法

- * _____円を a) 当日, 会場受付にて支払います。
- b) _____月 _____日送金します。

* (bを選択した方のみご記入ください)

b-1) 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
(社)情報処理学会 シンポジウム係)

b-2) 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 太陽神戸三井銀行東京営業部 4298739

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

・送金先銀行名 _____銀行宛

・送金取扱銀行名 _____銀行 _____支店より

・送金人名義 _____様

*請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は1枚1人としてください。(コピーで申し込むこと)

○申込先

情報処理学会 シンポジウム係 160 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル3F

Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

機関名 _____

フリガナ
氏 名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) FAX _____

会
社

「情報専門学科のコアカリキュラム—その内容、運用と問題点—」シンポジウム
参加申込書

平成3年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費（該当するものを○でかこむ）

正会員，賛助会員 10,000円 非会員 15,000円 学生会員 1,500円

* 参加費には，資料代が含まれています。

○資料のみ（5,000円，送料込）_____冊

○送金方法（該当するものを○でかこむ）

合計_____円を

a) 当日，会場受付にて支払います。

b) 現金書留で _____月_____日送金します。

c) 銀行振込（いずれも普通預金口座）で

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. 第一勧銀虎ノ門支店 1013945 | 4. 富士銀行虎ノ門支店 993632 |
| 2. 三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 | 5. 太陽神戸三井銀行東京営業部 4298739 |
| 3. 住友銀行東京公務部 10899 | 6. 三和銀行東京公務部 21409 |

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

・送金人名義 _____様

*請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通，見積書 通，納品書 通

請求先_____

注) 申込書は1枚1人としてください。（コピーで申し込むこと）

○申込先・送金先（FAXも可）

情報処理学会 シンポジウム係 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル3F

Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

.....
(楷書でハッキリ記入してください)申込者
連絡先 〒 _____

機関名 _____

フリガナ
氏名 _____

殿

Tel. _____ (ex. _____) FAX _____

「アドバンスト・データベースシステム・シンポジウム'91 と講習会」 開催について

6月号本欄でお知らせしました標記シンポジウムと今年から新たに講習会を下記の要領にて開催いたします。シンポジウムの詳しいプログラムは次号に掲載いたします。皆さま奮ってご参加ください。

(I) アドバンスト・データベースシステム・シンポジウム講習会

日 時 平成3年12月4日(水)

場 所 機械振興会館大ホール(地下2階)

参加費・送金方法 シンポジウムの参加申込と併せて申込書に一括掲載

申込締切 平成3年11月22日(金)

申 込 先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル3F
(社)情報処理学会 シンポジウム係
Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

講習会プログラム概要

—最近のデータベースとどうつきあうか— “先進的データベース応用の分析・設計・開発手法”

・10:00~12:00 リレーショナルデータベースシステムを用いた統合型アプリケーションの開発手法

平山 伸一 (KCS)

・13:00~15:00 オブジェクト指向データベースシステムを用いた先進的アプリケーションの開発

西川夕起子 (東洋情報システム)

・15:30~17:30 オブジェクト指向分析・設計

藤野 晃延 (富士ゼロックス情報システム)

(II) アドバンスト・データベースシステム・シンポジウム

日 時 平成3年12月5日(木)~12月6日(金)

場 所 機械振興会館大ホール(地下2階)

参加費・送金方法 講習会の参加申込と併せて次頁に一括掲載

申込締切 平成3年11月22日(金)

申 込 先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル3F
(社)情報処理学会 シンポジウム係
Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

シンポジウムプログラム概要

—リレーショナル DBMS は現場で本当に役に立っているか—

上記テーマのもと、基調講演、招待講演、サーベイ、一般論文発表を予定しています。詳しいプログラムは論文選考の関係で次号に掲載いたします。

なお、シンポジウムと講習会のお問い合わせは下記のいずれかにお問い合わせいたします。

増永 良文 (図書館情報大学 Tel. 0298 (52) 0511 FAX 0298 (52) 4326)

田中 克己 (神戸大学工学部 Tel. 078 (881) 1212 (内 5228) FAX 078 (861) 8099)

「アドバンスト・データベースシステム・シンポジウム '91 と講習会」

参加申込書

平成 3 年 月 日

標記シンポジウムと講習会の参加を下記によって申し込みます。

○参加費

	講習会(12/4)のみ申込		シンポジウム(12/5.6)のみ申込		講習会とシンポジウムの両方申込	
正会員 賛助会員	T-1	10,000 円	S-1	15,000 円	TS-1	20,000 円
学生会員	T-2	2,000 円	S-2	3,000 円	TS-2	4,000 円
非会員	T-3	15,000 円	S-3	20,000 円	TS-3	28,000 円

該当する番号を○でかこむ (T-1 T-2 T-3 S-1 S-2 S-3 TS-1 TS-2 TS-3) 講習会、シンポジウムとも参加費には資料代が含まれています。

○資料のみ

(講習会 5,000 円 ___ 冊, シンポジウム 7,500 円 ___ 冊, 両方 10,000 円 ___ 冊, 送料込)

○送金方法

- * _____ 円を a) 当日, 会場受付にて支払います。
b) _____ 月 _____ 日送金します。

* (b を選択したかたのみご記入ください)

b-1) 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
(社)情報処理学会 シンポジウム係 Tel. 03 (3505) 0505)

b-2) 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 太陽神戸三井銀行東京営業部 4298739

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

- ・送金先銀行名 _____ 銀行宛
- ・送金取扱銀行名 _____ 銀行 _____ 支店より
- ・送金人名義 _____ 様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は 1 枚 1 人としてください。(コピーで申し込むこと)

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

機関名 _____

フリガナ
氏 名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) FAX _____

「1992 年並列処理シンポジウム JSPP '92」論文募集

コンピュータにおける並列処理の技術的な課題を対象として、基礎理論、アルゴリズム、ソフトウェア、アーキテクチャ、応用と広い範囲にわたって議論することを目的とした「並列処理シンポジウム JSPP」も、今回で4回目を迎えることとなります。これまで、日本における並列処理の中心的な研究交流の場の1つとして、ホットな話題を提供してきました。今回も、学際的な並列処理研究のなご一層の発展を目指して、並列処理に関する下記のようなテーマについて論文を募集いたします。是非、多数ご応募ください。

● テーマ 並列処理技術や応用

- ・基礎理論, 計算モデル, アルゴリズム
- ・プログラミング言語, 言語処理系
- ・オペレーティングシステム
- ・アーキテクチャ
- ・データベース
- ・数値計算応用
- ・人工知能応用
- ・スーパーコンピュータティング
- ・ニューロコンピュータティング
- ・光コンピュータティング
- ・システム性能評価
- ・その他

● 日 時 1992年6月15日(月)～17日(水)

● 会 場 パシフィコ横浜(横浜市西区みなとみらい 1-1)

● 主 催 情報処理学会・計算機アーキテクチャ研究会, 同・データベース研究会,
同・オペレーティングシステム研究会, 同・アルゴリズム研究会,
同・プログラミング言語・基礎・実践一研究会, 同・数値解析研究会,
電子情報通信学会・コンピュータシステム研究会

● 協 賛 日本ソフトウェア科学会

● 実行委員会 委員長 富田 真治(京大)

副委員長 小池 誠彦(日電), 安村 通晃(慶大)

幹 事 天野 英晴(慶大), 柴山 潔(京大), 中田登志之(日電)

● 発表申し込み方法

A4判4枚以内(題目/図表を含む)の発表概要(無記名, 日本語か英語)6部に, A4判1枚の発表申込票(発表題目, 発表者氏名/所属, 3個程度のキーワード, 連絡先の氏名/所属/〒番号/住所/電話番号/FAX 番号/E-mail アドレス)を添えて, 下記実行委員会・幹事までお申し込みください。実行委員会において審査を行い, 採録するかどうかを決定します。

● 日 程 1992年1月10日(金) 発表申し込み締切

1992年2月28日(金) 審査結果通知

1992年5月8日(金) カメラレディ原稿締切

● 発表申し込み先(問合せ先)

606-01 京都市左京区吉田本町 京都大学工学部情報工学教室 柴山 潔

Tel. 075 (753) 5383, FAX 075 (753) 5379

E-mail: shibayam@kuis.kyoto-u.ac.jp

大学等における情報処理教育のための調査研究報告書

頒布のお知らせ

本学会では、文部省高等教育局から「大学等における情報処理教育のための調査研究」の委嘱を受け、大学等における情報処理教育検討委員会（委員長 野口正一）を設け2年間にわたり調査研究を行ってきました。

この調査研究は、大学、高専、短大等の情報専門学科における情報処理教育のなかからいわゆるコンピュータサイエンスの教育を総括的課題として取り上げ、高等教育機関における情報技術者の育成と学生に対するリテラシー教育を示唆しています。また、調査研究のねらいとして、前述の各教育機関における情報処理教育の実態を調査分析し、今後の情報処理教育のあるべき姿を探るとともに、具体的な方策「IPJS CS カリキュラム J'90」を提案して、その普及啓蒙と改善・発展をはかることを示しております。

本報告書の主要目次は、次のように構成されています。

- 第1章 研究の概要
- 第2章 コンピュータサイエンスのコアカリキュラムの検討の目的
- 第3章 情報専門学科における現状と問題点
- 第4章 情報専門学科におけるコアカリキュラム
- 第5章 わが国の情報系専門学科の暫定カリキュラム案
- 第6章 情報系専門学科における実験・演習
- 第7章 コンピュータサイエンスの試験問題の例
- 第8章 今後の課題
- 第9章 まとめ 付録文献等

この報告書を次の要領でおわけいたします。申込書（1枚1人使用のこと）を郵便、または FAX にて下記までお送りください。

頒布価格 3,000 円（送料、消費税込） 申込締切 平成3年11月29日（金）
 申込み・問合せ先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会 研究会係
 Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

申 込 書

大学等における情報処理教育のための調査研究報告書

申込者氏名 フリガナ _____

連絡先所属 _____

Tel. _____ FAX _____

送本先	〒	—		
住所				
所属				
氏名				殿

希望部数 _____ 部

請求書 _____ 通

見積書 _____ 通

納品書 _____ 通

請求宛名 _____

◀送本用宛名ラベルに使用
楷書にてご記入ください

送金方法（該当欄に○印願います） *名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 (社)情報処理学会

現金書留 郵便振替（東京 5-83484） 持参

銀行振込（いずれも普通預金口座）

●送金先銀行名 _____ ●送金名義人 _____

●送金に関する問合せ先 担当者名 _____ Tel. _____


第一勧銀虎ノ門支店 1013945	住友銀行東京公務部 10899	太陽神戸三井銀行 東京営業部 4298739
三菱銀行虎ノ門公務部 0000608	富士銀行虎ノ門支店 993632	三和銀行東京公務部 21409

第 8 回色彩工学コンファレンス (第37回光学四学会連合講演会)

主 催: 光学四学会 (日本写真学会、応用物理学会日本光学会、照明学会、日本色彩学会)
協 賛: 画像電子学会、情報処理学会、テレビジョン学会、電気学会、電子写真学会、電子情報通信学会、日本印刷学会、日本心理学会、日本デザイン学会、日本M E学会、レーザー学会、色材協会、I S T東京支部、人工知能学会

第 8 回色彩工学コンファレンスを下記のように開催いたします。

また展示会『カラーテクノロジー-JAPAN'91』(11月19日、20日、入場無料)とチュートリアル講演(11月16日別途有料、別会場)を併催いたします。関連分野の方々の積極的参加を期待します。

<p>色彩工学コンファレンス</p> <p>日 時: 1991年11月18日(月) 9:20~18:00 19日(火) 9:10~17:50</p> <p>会 場: 科学技術館・サイエンスホール (東京・竹橋) 東京都千代田区北の丸公園2-1 ☎(03)3212-8471</p> <p>参加費: コンファレンス (論文集代を含む) 共催協賛会員 9,000円 非 会 員 11,000円 学 生 4,000円</p> <p>交 通: 竹橋駅徒歩7分 (地下鉄東西線) 九段下駅徒歩7分 (地下鉄東西線) ・半蔵門線 ・新宿線</p> 	<p>チュートリアル</p> <p>日 時: 11月16日(土) 9:30~16:40</p> <p>会 場: 中退金ビル・大ホール 東京都港区芝公園1-7-6 ☎(03)436-0151</p> <p>交 通: J R 浜松町駅徒歩8分 地下鉄浅草線大門駅徒歩3分 地下鉄三田線芝公園駅徒歩3分</p> <p>申込締切: 11月9日(土)</p> <p>参加費: チュートリアル (テキスト代を含む) コンファレンス参加者 16,000円 その他一般 20,000円 学 生 6,000円</p> <p>プログラム</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">9:30 ~11:00 (1) 表色の基礎</td> <td>荒生 薫 (東工芸大)</td> </tr> <tr> <td>11:10 ~12:40 (2) 測色の基礎</td> <td>平井敏夫 (日本色研)</td> </tr> <tr> <td>13:30 ~15:00 (3) 色再現の基礎</td> <td>犬井正男 (コニカ)</td> </tr> <tr> <td>15:10 ~16:40 (4) 色信号変換の基礎</td> <td>小寺宏暉 (松下技研)</td> </tr> </table>	9:30 ~11:00 (1) 表色の基礎	荒生 薫 (東工芸大)	11:10 ~12:40 (2) 測色の基礎	平井敏夫 (日本色研)	13:30 ~15:00 (3) 色再現の基礎	犬井正男 (コニカ)	15:10 ~16:40 (4) 色信号変換の基礎	小寺宏暉 (松下技研)
9:30 ~11:00 (1) 表色の基礎	荒生 薫 (東工芸大)								
11:10 ~12:40 (2) 測色の基礎	平井敏夫 (日本色研)								
13:30 ~15:00 (3) 色再現の基礎	犬井正男 (コニカ)								
15:10 ~16:40 (4) 色信号変換の基礎	小寺宏暉 (松下技研)								

申込・送金方法:

- (1)銀行振込の場合: 申込書に必要事項をご記入の上、下記の申込先までお送りください (FAX可)。こうかくしんがつかいけんじ かい
振込先は三菱銀行・浜松町支店 (018)・普通預金・0135840 口座名「光学四学会幹事会」
- (2)郵便振替の場合: 申込は、振替用紙の通信欄に申込書と同じ事項をお書きください (個人名も)。申込書は送らないでください。
振替は、東京8-69794 口座名「光学四学会幹事会」
- (3)申込書あるいは振替用紙が事務局に届き次第、参加受付証をお送ります。
- (4)申込先: 〒105 東京都港区浜松町2-12-14 第2日化ビル連企画気付 「色彩工学コンファレンス事務局」 ☎&FAX03(3433)2543
*申込みは論文集、テキストに余裕のある範囲で当日も受付けます。

論文集・テキスト: 当日会場でお渡します (欠席者には終了後郵送)。論文集だけは9,000円で頒布します (終了後郵送)。

第 8 回色彩工学コンファレンス申込書

氏 名 (複数記入可)	所属学会
連絡先 〒 ☎ 所在地	
機関名	参 加 <input type="checkbox"/> コンファレンス <input type="checkbox"/> チュートリアル
所 属	資 格 <input type="checkbox"/> 会 員 <input type="checkbox"/> 非会員 <input type="checkbox"/> 学 生
送 金 額 (予定)	

第8回色彩工学コンファレンス プログラム

第1日 11月18日(月) 9:20~18:00

開会の辞 (9:20~9:30)

内田康男実行委員長(日本写真学会、コニカ)

1. 測色(1) (9:30~11:10)

座長 一条 隆(東芝ライテック)

1-1 CIE XYZ表色系60周年を迎えて(招待講演)

川上元郎(東京工芸大)

1-2 100色相環の表色と色差について—美術大学生の実験—

山岸政雄(金沢美術工芸大)

1-3 三波長形蛍光灯ランプの器具透過色の好ましさ

小松原仁・坂田勝亮(日本色研)、淵田隆義・星野兼子・
榊原裕一(東芝ライテック)、鈴木恒男(慶応大)

1-4 光源色の白色度評価法

鈴木恒男(慶応大)、淵田隆義(東芝ライテック)、小松原仁・坂田勝亮(日本色研)

2. 測色(2) (11:20~12:40)

座長 明道 成(三菱電機)

2-1 測光・測色あれこれ(招待講演)

富永 守(東芝ライテック)

2-2 パール・マイカペイントのフロップ感の評価

馬場護郎(村上色研)

2-3 TiO₂/Seカラーセンサを用いたファジィ推論方式色選別装置の試作

栗原幸男・湯浅宏康・小林 賢(神奈川県工試)、山中守秀・堀田 優・口 武夫(モリカ)

3. 色彩表示・デバイス(1) (13:40~15:00)

座長 畑田豊彦(東工芸大)

3-1 プラズマディスプレイの現状と将来(招待講演)

内池平樹(広島大)

3-2 色感学考のすすめ(招待講演)

伊藤安雄(東芝ライテック)

4. 配色(1) (15:10~16:30)

座長 日原もとこ(製料研)

4-1 自動配色の試み(招待講演)

北島 燿(文化女子大)

4-2 デジタル・カラー・オーダーシステム

高畑利雄(アミック)

4-3 カラーデザインシステムにおける配色支援

佐藤洋一(NSIS)、田島謙二・斉藤卓資(NEC)

5. 配色(2) (16:40~18:00)

座長 小松原仁(日本色研)

5-1 インテリアカラーと照明による複合効果のマニュアル(1)

—インテリアカラー&ライティングコーディネートシステムにおける視点と展開—

日原もとこ(製料研)、児玉 晃(日本色研)、門永鉄雄・紺藤建夫・蒲 秀樹(松下電工)

5-2 インテリアカラーと照明による複合効果のマニュアル(2)

—コンピュータグラフィックスによる色と照明のシミュレーション—

日原もとこ(製料研)、児玉 晃(日本色研)、門永鉄雄・紺藤建夫・蒲 秀樹(松下電工)

5-3 コンピュータ・グラフィックス上での情報表示デザインにおける同時対比の補正

石崎 豪(メディア科学研究所)・小林裕和・古塚真彦

5-4 コンピュータ・グラフィックスによる室内配色、及び配置能力の開発

—ニューメディアによるファッション教育の可能性— 浅井 宏(東筑業短大)

第2日 11月19日(火) 9:10~17:50

6. 色覚(1) (9:10~10:50)

座長 内川恵二(東工大)

6-1 薄明視における色の見え(招待講演)

湯尻 照(広島工大)

6-2 薄明視の色の見えとそのシミュレーション

門馬智春・本間園乃枝・矢口博久・羽石秀昭・三宅洋一(千葉大)

6-3 知覚に基づいた明るさ評価システムの一提案

中野靖久(東工大)

6-4 L/Y比と純度弁別およびG₀について

納谷嘉信・高木英行・山田崇裕(大阪電通大)、
橋本健次郎(松下電器)、側垣博明(電総研)

7. 色覚(2) (11:10~12:30)

座長 斎田真也(製料研)

7-1 物体色・光源色モード認識と色の見え(招待講演)

岡嶋克典(防衛大)

7-2 高齢者の色識別能力—光色との関係—

矢野 正・橋本健次郎・金谷末子(松下電器)

7-3 色と形の見え(人工物、自然物)の評価

武市啓司郎・佐川 賢・清水 豊(製料研)

8. 色彩表示・デバイス(2) (13:40~14:20)

座長 犬井正男(コニカ)

8-1 光SHGの現状と技術動向(招待講演)

黒沢秀行(コニカ・技術研究所)

9. 色再現(1) (14:20~15:40)

9-1 カラーコピアの画質目標(招待講演)

仲谷文雄(富士ゼロックス)

9-2 自然カラー画像の色空間分布と画質

後澤尚人(凸版印刷)

9-3 射影変換を用いた色補正方式

関 範顕(富士ゼロックス)

10. 色再現(2) (16:00~17:40)

座長 高橋公治(富士フィルム)

10-1 CIE均等色空間の色相線の曲がり—電子画像の色再現に最適な均等色空間を求めて— 洪 博 哲(コニカ)

10-2 ホワイトバランス調整のための光源推定方法の検討

山田 伸・金道敏樹(松下技研)、高柳俊和(松下電器)

10-3 カラー風景画像のIQ信号表示と画像圧縮

飯塚昌之(東京工芸大)、駒井義弘(ソニー)

10-4 色領域抽出を目的とした色空間座標系の検討

本村秀人・金森克洋・麓 照夫(松下技研)

10-5 減法混色で用いられる色素の色域効率

犬井正男(コニカ)

閉会の辞 17:40~17:50

第9回色彩工学コンファレンス実行委員長

第 2 2 回画像工学コンファレンス —Japan Imaging Technology '91—

画像工学コンファレンスは1970年に第1回が開催されてから今回で22回を迎えることになりました。その間、関連学会・研究会の共通の研究発表・討論の場として、日本の画像工学の研究開発の発展に大いに寄与してまいりました。本年も新たな発展を期し第22回画像工学コンファレンスを開催することいたしました。

- (1) 特別セッション『画像メディアの展望』
- (2) 招待講演
- (3) 応募による一般講演（口頭発表と討論が十分にできるポスタ講演）

さらに、'91 国際画像機器展（入場無料）を併催いたします。

関連分野の方々の積極的なご参加を期待いたします。

期 日：1991年12月10日（火） 9：20～19：00
 11日（水） 9：10～19：20
 12日（木） 9：00～11：40

会 場：ABC会館ホール（地下鉄三田線芝公園駅、日比谷寄り出口）
 東京都港区芝公園2-6-3 ☎03（3436）0430

参加費：加盟学会員	10,000円	} 論文集代を含みます
学 生	5,000円	
非 会 員	12,000円	

申込・送金方法：

- (1) 申込期限 1991年11月20日（水）
 （これ以後は資料などの余裕がある場合受付けます。）
- (2) 申込先 〒105 東京都港区浜松町2-12-14 第2日化ビル連企画気付
 第22回画像工学コンファレンス事務局
 ☎&FAX 03（3433）2543
- (3) 銀行振込の場合 申込書に必要事項をご記入の上、お送りください（FAX可）。
 お振込みのときは、振込人名（会社名等）の前に登録番号（参加受付番号）を必ずご記入ください。
 三菱銀行・浜松町支店（018）・普通預金・0135837
 口座名「画像工学コンファレンス」
- (4) 郵便振替の場合 東京7-69769 口座名「画像工学コンファレンス」
 振替用紙の通信欄に、申込書と同じ事項をご記入ください（個人名は必ずお書きください）。
 （振替用紙を申込書として扱いますので別紙申込書は二重登録になるので送らないでください）

* 申込書または郵便振替用紙が届き次第、参加受付証をお送りします。

論文集：当日会場でお渡しいたします。欠席の方には終了後、郵送いたします。

論文集のみご希望の方には、10,000円で終了後、郵送いたします。

主 催：第22回画像工学コンファレンス実行委員会（担当 テレビジョン学会）

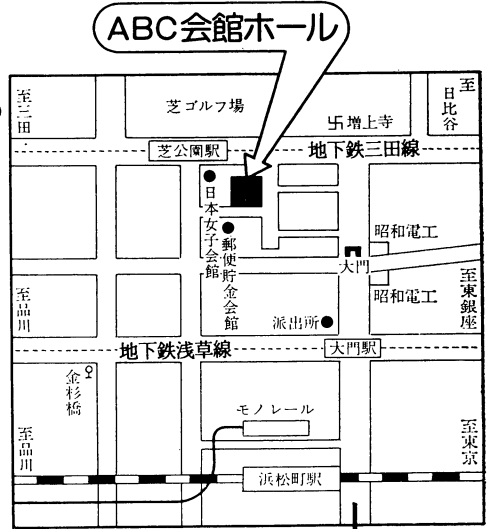
加盟学会・委員会：応用物理学会日本光学会、テレビジョン学会・情報ディスプレイ研究委員会・視聴覚技術研究委員会・画像通信システム研究委員会・画像処理コンピュータビジョン研究委員会・画像応用研究委員会、電気学会・電子デバイス技術委員会・光量子デバイス技術委員会、電子情報通信学会・画像工学研究専門委員会・パターン認識理解研究専門委員会、日本ME学会、画像電子学会、日本写真学会、電子写真学会、日本写真測量学会、情報処理学会・コンピュータビジョン研究会・グラフィックスとCAD研究会、日本印刷学会、レーザー学会、日本医療情報学会、医用画像情報学会、計測自動制御学会・パターン計測部会、日本非破壊検査協会、日本医用画像工学会、SPIE日本支部。

91国際画像機器展（入場無料）

期 日 1991年12月11日～13日 会 場 東京産業貿易会館（港区・竹芝）

主 催 日本画像・計測機器協議会（☎03-3367-0571）

* コンファレンス会場と展示会場との間は、無料シャトルバスが走ります。



↓
**91国際画像機器展
 会 場
 東京産業貿易会館**

第22回画像工学コンファレンス プログラム

第1日目 12月10日(火) 9:20~19:00

開会の辞 (9:20~9:30)

日下秀夫実行委員長 (NHK)

1. 特別セッション「画像メディアの展望」 (9:30~11:30) 座長

日下秀夫 (NHK)、山本英雄 (KDD)

1-1 衛星による画像ネットワーク

John Lewis (CNN Japan)

1-2 3次元画像技術の展望

平 正昭 (リンクス)

1-3 ハイパーメディアの展開

浜野保樹 (放送教育開発センター)

2. 入出力デバイス (11:40~12:40) 座長

杉山 精 (東工芸大)

2-1 液晶ディスプレイの現状 (招待講演)

横澤美紀 (高度映像技術研究所)

2-2 無機多孔質材料の細孔構造と画像記録材料への応用

簾田勝俊・埴子牟田等・横田信行・長谷川隆文・鈴木信一 (旭硝子)

3. ポスタセッション(1) (13:10~14:40)

3-1 固定観測領域での光流動の記述と計測

野村厚志・三池秀敏・古賀和利 (山口大)

3-2 変動図形における変動評価量とその応用

長谷博行・米田政明・酒井 充 (富山大)

3-3 エネルギー最小化による変形可能な物体の動画追跡

藤村恒太 (三洋電機)、横矢直和・山本和彦 (電総研)

3-4 VIEW-Stationのグラフィカルユーザインタフェース

河合智明・岡崎 洋・田中宏一良・田村秀行 (キャノン)

3-5 微小レンズアレイによる視覚認識システムの基礎研究

山口 茂・矢野潤一・亀丸俊一 (茨城大)

3-6 部分パターンを用いた特徴抽出の手法による文字認識システムの基礎研究

矢野潤一・亀丸俊一 (茨城大)

3-7 高輝度LEDアレイ光源を用いた空間コヒーレンス制御可能な顕微鏡

山本明弘・河田 聡・南 茂夫 (阪大)

3-8 2原色によるカラー画像再生法

小寺宏暉・金森克洋・麓 照夫 (松下技研)

3-9 投影法を用いた画像内線分情報の抽出

諸角 建・高井宏昌・野田健一 (拓殖大)

3-10 動的k近傍法による画像のリラクゼーション

萩原義裕・小畑秀文・大森隆司 (東京農工大)

3-11 地中レーダ画像からの埋設物の検出 -ブロック化マイグレーション法の応用-

許 光 秀・川中 彰 (上智大)、中山 昇 (大阪ガス)、高木幹雄 (東大・生研)

3-12 錯視現象を用いた似顔絵変形の自律的評価 -PICASSO システムのデフォルメ制御-

村上和人・奥水大和・中山 晶・福村晃夫 (中京大)

3-13 自動2値化のための前処理

須崎寛則・金近昭彦 (古野電気)

3-14 フーリエ位相相関法を用いたパターン識別

中山 亨 (住友化学)、河田 聡・南 茂夫 (阪大)

4. 三次元表示 (13:50~15:10) 座長

本田捷夫 (東工大)

4-1 Conical Holographic Stereograms, Real Image

L. M. Murillo-Mora, T. Muto, K. Okada and J. Tsujiuchi (千葉大)

4-2 断層多重記録ホログラムによる医用画像の3D表示

伊藤康治・宋 玄 鎬・石垣 徹・小池 功・岡田勝行・辻内順平 (千葉大)

4-3 アクティブバリア方式めがねなし3Dディスプレイ

磯野春雄・安田 稔 (NHK)、笹沢秀明 (中央大)

4-4 ホログラフィックステレオグラム方式による電子ホログラムディスプレイ

吉川 浩・佐々木建光・阿部公威 (日本大)

5. コンピュータビジョン(1) (15:20~17:00) 座長

佐藤 誠 (東工大)

5-1 知能ロボットのためのステレオビジョン (招待講演)

富田文明 (電総研)

5-2 動画画像を用いた注視者の切り出し

嵩田 聡 (NTT)

5-3 人物のカウンティング方法に関する検討

小池秀樹・土川 仁・安達文夫 (NTT)

5-4 スキャン式空間コード化法によるレンジファインダ

橋本礼児・佐藤幸男 (名工大)

優秀ポスタ表彰(17:00~17:10)

6 コンピュータビジョン(2) (17:20~19:00) 座長

尺長 健 (NTT)

6-1 運動視差画像列による奥行き計測

生出真里・五十嵐智・阿刀田央一・斎藤延男 (東農工大)

6-2 カラーステレオマッチングとその視神経乳頭3次元形状計測への応用

奥富正敏・吉崎 修 (キャノン)、富田剛司 (岐阜大)

6-3 ファイバースケイティングを用いた3次元物体の高速自動識別システム

寺田賢治・中沢和夫・中島真人 (慶応大)、油田信一 (筑波大)

6-4 パルス制御3次元視覚センサ

小関 修・樋口和則・山本 新 (豊田中研)

6-5 緩やかな濃度分布モデルを用いるごく少数方向投影からの高速な3次元パターン計測

田山典男・船岡 真 (岩手大)

第2日目 12月11日(水) 9:10~19:20

7. カラー画像 (9:10~11:10)

座長 三宅洋一(千葉大)

- 7-1 The application of data interpolation techniques to image modeling (招待講演)
Dr. David R. Cok (Eastman kodak Co., Imaging Science Lab.)
- 7-2 カラー画像の色彩強調 谷口幸治・中島真人(慶応大)
- 7-3 カラー2値表示装置を用いた擬似フルカラー表現 前田尚利・中島真人(慶応大)
- 7-4 カラーハードコピーにおける色再現向上のための手法 -注目色に応じた重み付け-
宮田公佳・羽石秀昭・矢口博久・三宅洋一(千葉大)
- 7-5 色相関を用いたカラー画像の高解像度化 山本直史・関沢秀和(東芝)

8. 画像処理(1) (11:20~12:40)

座長 中島真人(慶応大)

- 8-1 ブラインド デコンボリューションによる像回復(招待講演) 小松進一(早稲田大)
- 8-2 一般化EMアルゴリズムを用いた画像復元 工藤博幸(東北大)、斎藤恒雄(筑波大)
- 8-3 凸射影法による画像復元の問題点とその改良法 西 一樹(電通大)

9. ポスタセッション(2) (13:10~14:40)

- 9-1 印刷用カラスキャナにおけるファジィ理論を用いたオートセットアップ 竹本文人・宮川正・福井隆(富士フィルム)
- 9-2 部分的連続画像のKL変換の処理による因子画像列の生成 立川 光・中原壽喜太・土井昭孚・田邊正忠(香川医大)
- 9-3 パノラマ画像を用いた仮想カメラシステム 林 正樹・福井一夫(NHK)、中村一二(東京理大)
- 9-4 フィードバック結合をもつBPモデルによる電子部品番号の認識
今井勝次(トヨタ自動車)、郷原一寿・内川嘉樹(名大)
- 9-5 ISDNによる画像高速通信 王 昌 正・野村孝徳・平野浩太郎(神戸大)
- 9-6 光アレイロジックを用いたソーティングの検討 岩田昌也・谷田 純・一岡芳樹(阪大)
- 9-7 3層型液晶偏光干渉計による像面フーリエ分光映像法 太田隆志・井上 卓・伊東一良・一岡芳樹(阪大)
- 9-8 レーザ3次元測定における光学系 永田秀範・山田 修・小野裕司・戒田健一・奥田英二(松下寿電子)
- 9-9 ホログラフィックステレオグラムによる胎児の立体表示
伊東紘一(自治医科大)、勝間ひでとし(多摩美大)、石川 洵(石川光学造形研究所)
- 9-10 ホログラフィ映写技術の実験的検討 樋口和人(NTT)、檜山茂雄・石川 洵(多摩芸術学園)
- 9-11 衣服CADのための人体三次元形状モデル 岸本泰蔵・篠崎彰大(ワコール)、紅野 進・黒川隆夫(京都市織大)
- 9-12 3-D PRINTER のカラー化 榎本 寿・山口雅浩・本田捷夫・大山永昭(東工大)
- 9-13 高速・連続3次元計測システム 荒木和男・清水 優(中京大)、野田貴之・千葉裕二(名工大)
津田幸文・池谷和俊・三宮邦夫、五味睦子(松下技研)

10. 画像処理(2) (13:50~15:10)

座長 村上仁己(KDD)

- 10-1 画像処理における最近のハードウェア構成技術(招待講演) 古閑敏夫(日本電気)
- 10-2 The development of intelligent associative memory system 盧 学 農・大山永昭・山口雅浩・本田捷夫(東工大)
- 10-3 光散乱理論および散乱パターンの周期情報を用いた画像処理による粒子像解析
多田伸行・三池秀敏(山口大)、百田正広(徳山工高専)

11. 画像処理(3) (15:20~16:40)

座長 坂上勝彦(電総研)

- 11-1 自然画像を用いたイメージシミュレーションシステム 加藤 誠・瀧澤由里・森田豊久・野山英郎・
宮岡伸一郎・能見 誠(日立製作所)
- 11-2 手書き変動の定量化とその文字認識への応用 塩山忠義・笹田勝弘(京都市織大)
- 11-3 空間周波数の特徴による画像の領域分割 重永 哲(凸版印刷)
- 11-4 カラー風景画像のアダマール変換符号化と画像圧縮
飯塚昌之(東工芸大)、駒井義弘(ソニー)

優秀ポスタ表彰(16:40~16:50)

12. 画像とアメニティ (17:00~17:40)

座長 磯野春雄(NHK)

- 12-1 画像と感性工学(招待講演) 長町三生(広島大)

13. 画像通信 (17:40~19:20)

座長 酒井善則(東工大)

- 13-1 画像通信サービスの展望(招待講演) 一之瀬進(NTT)
- 13-2 画像の色度信号伝送の特性 栗田泰市郎・藤川善章(NHK)
- 13-3 文字・絵柄混在文書の適応符号化方式 白沢寿夫・今尾 薫・山田和作(リコー)
- 13-4 パソコンネットワークにおけるファイル型静止画像放送システム 田中 清・岡 一博・中村康弘・松井甲子雄(防衛大)

第3日目 12月12日(木) 9:00~11:40

14. 医用画像(1) (9:00~10:20) 座長 野原功全(放医研)
- 14-1 医用画像システムの最新動向と将来展望(招待講演) 大山永昭(東工大)
 - 14-2 内視鏡時系列画像を利用したハレーション除去 小田紀彦・山口雅浩・大山永昭・本田捷夫(東工大)
野波徹緒(オリンパス光学)
 - 14-3 SPECT における散乱線除去法に関する比較 芝山 正・尾川浩一(法政大)
15. 医用画像(2) (10:20~11:40) 座長 犬井正男(コニカ)
- 15-1 核磁気共鳴イメージによる生体内温度の計測 的崎 健(東京理科大)
 - 15-2 Morphological Filterによる微小石灰化像の抽出と乳癌診断 金 華 栄・小畑秀文(東京農工大)
 - 15-3 SVDを用いた脳磁イメージング系の解析 小尾高史・山口雅浩・大山永昭・本田捷夫(東工大)
小椋有希子・関原謙介(日立)
 - 15-4 キロヘルツ域マイクロ秒パルスX線装置の開発と高速度X線テレビジョンシステム
佐藤英一・寒河江康朗・志子田有光・木村真吾・玉川芳春・柳沢 融(岩手医大)

講演時間(質疑応答を含む)	
一般講演	20分
特別・招待講演	40分
ポスタセッション	90分/ロビーにおいて並行して発表

.....キ.....リ.....ト.....リ.....セ.....ン.....

第22回画像工学コンファレンス -Japan Imaging Technology 91- 参加申込書

氏名 (複数記入可)				
連絡先 電話/FAX				
所在地 〒				
機関・所属名				
資格	会員	非会員	学生	送金額 (予定) ¥
所属学会(所属するすべての学会に○印をつけてください) 応物光学 テレビ 電気 電子情報通信 ME 画像電子 写真 電子写真 写真測量 情報処理 印刷 レーザー 医療情報 計測制御 非破壊検査 JAMIT SPIE				

支部だより

北海道支部 見学会

日時 平成3年11月8日(金) 8:20~17:30
見学先 (1) 北海道電力(株)原子力 PR センタ「とまりん館」
(2) " 泊発電所
行程 8:20 集合 北電本社東玄関前
11:00~11:45 昼食
12:00~15:00 原子力 PR センタ「とまりん館」, 泊発電所 見学
17:30 北電本社前 解散
参加締切 10月31日(木) 17:00 まで
定員 35名(先着順)
参加費 1,000円(昼食代)
申込方法 電話により下記に申込みください。
問合せ先 北海道電力(株) 工務部発変電課 伊賀 Tel. 011(251)1111(内4145)

中部支部 支部大会案内——平成3年度電気関係学会東海支部連合大会

期日 平成3年11月28日(木), 29日(金)
会場 豊橋技術科学大学(豊橋市天伯町雲雀ヶ丘 1-1)
特別講演 高度情報ネットワークの諸問題(28日 15:00~17:00) 秋丸 春夫(豊技大)
シンポジウム(依頼講演)
電力技術における最近の展開(29日 9:30~12:00) 座長 鬼頭 幸生(名大)
プラズマ生成研究の新しいパラダイムへ向けて(29日 13:00~16:20) 座長 高村 秀一(名大)
高温超伝導体薄膜・デバイス技術の最近の進歩(29日 9:00~12:00) 座長 早川 尚夫(名大)
光情報処理の現状と将来(28日 9:00~12:00) 座長 宮崎 保光(豊技大)
自然言語処理技術の現状と展開(29日 13:00~16:30) 座長 稲垣 康善(名大)
CAD/CAM から CIM へ(28日 9:30~11:30) 座長 伊藤 誠(中京大)
一般参加費 講演者以外は、参加費(正会員500円, 会員外800円, 学生無料)を当日受付で支払い, 参加章を受け取ること。ただし, 論文集購入者は参加費不要。
懇親会 28日(木) 17:20~19:00 豊橋技術科学大学 福利施設 会費3,500円(学生2,000円)
参加希望者は当日大会受付で会費を添え申し込むこと。
問合せ先 460 名古屋市中区大須 4-9-60 NTT 東海支部技術開発部内
電気関係学会東海支部連合大会実行委員会事務局 Tel. 052(291)2466

講演会

日時 平成3年11月13日(水) 15:00~17:00
会場 静岡大学工学部情1教室(浜松市城北 3-5-1)
演題 計算論的学習理論の現状と動向 西野 哲朗(東京電機大)
参加費 無料(参加資格は問いません)
問合せ先 静岡大学工学部情報知識工学科 山口高平 Tel. 053(471)1171(内502)

講 演 会

日 時 平成3年11月15日(金) 14:30~16:00
 会 場 金沢工業大学 5号館 5.101室(石川県石川郡野々市町扇が丘 7-1)
 演 題 VLSI とその CAD 川本 栄二(東 芝)
 参加費 無 料(参加資格は問いません)
 問合せ先 金沢工業大学情報工学科 渡辺弥寿夫 Tel. 0762 (48) 1100 (内 2406)

講 演 会

日 時 平成3年11月15日(金) 15:00~17:00
 会 場 愛知工業大学附属図書館視聴覚教室(豊田市八草町八千草)
 演 題 道路情報システムと交通管制および大学における情報処理システム 長谷川利治(京 大)
 参加費 無 料(参加資格は問いません)
 問合せ先 愛知工業大学情報通信工学科 鈴木 晋 Tel. 0565 (48) 8121 (内 396)

中国支部 「マルチメディア処理の動向とその応用」講習会

日 時 平成3年11月15日(金) 9:20~17:40
 会 場 NTT 袋町ビル2階会議室(広島市中区袋町 6-11)
 定 員 100名(先着順)
 参加費 会員 8,000円(学生 4,000円), 非会員 10,000円
 申込方法 はがきに「マルチメディア処理の動向とその応用に関する講習会申込み」と標記し, ①氏名, ②所属学会
 ③勤務先・連絡先, ④送金日・送金額を記入して下記あてお申込みください。参加費は銀行振込または
 現金書留にてご送金ください。
 送 金 先 広島銀行西条支店普通預金 口座番号 185030 情報処理学会 中国支部
 申 込 先 724 東広島市鏡山 1-4-1 広島大学工学部第二類(電気系)内 情報処理学会中国支部 中村庚二
 Tel. 0824 (22) 7111 (内 3443) FAX 0824 (22) 7195

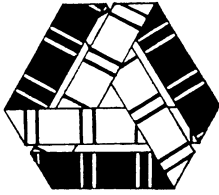
プログラム

支部長挨拶(9:20~9:30) 高石 浄
 マルチメディアの要素技術と応用 前川 守(東 大)
 エンジニアリング応用に適したオブジェクト指向データベースの研究開発について 石川 博(富士通研)
 マルチメディア処理 金子 章弘(日本IBM)
 マルチメディア情報通信とその応用 阪田 史郎(日本電気)
 次世代データベースへの動向 児西 清義(NTTデータ)
 パネル討論会 全 講 師

四国支部 支部大会案内——平成3年度電気関係学会四国支部連合大会

期 日 平成3年11月1日(金)
 会 場 四国電力総合研修所(高松市屋島西町 1850-1)
 問合せ先 790 松山市文京町 3 愛媛大学工学部電気電子工学科内
 電気関係学会四国支部連合大会論文編集委員会 Tel. 0899 (24) 7111 (内 3748)

会議案内



各会議末のコードは、整理番号です（*：本年既掲載分，**：昨年既掲載分）。会議の詳細を知りたい方は、学会事務局へ切手 72 円を同封のうえ、請求ください。（国内連絡先が記載されている場合は除く。）

- 1. 開催日, 2. 場所, 3. 連絡, 問合せ先, 4. その他

国際会議

国際フロンティア研究システム第 I 期研究成果報告会 (066)

- 1. 1991 年 11 月 5 日 (火)
- 2. 経団連会館 (東京都千代田区大手町)
- 3. 理化学研究所 フロンティア研究推進部
Tel. 0484 (62) 1111 (内 6134)
- 4. 入場無料

ASIACRYPT '91 (*050)

- 1. 1991 年 11 月 11 日 (月)~14 日 (木)
- 2. ホテルハイランドリゾート (富士吉田市)
- 3. 主催：電子情報通信学会, 国際暗号研究学会 (IACR)
申込み先: 180 東京都武蔵野市緑町 3-9-11
NTT 基礎研究所 小山 謙二
Tel. 0422 (59) 2189, FAX 0422 (59) 3240
- 4. 参加費：一般 55,000 円, 学生 33,000 円 (併設技術展示会あり)

SAIT '91—国際画像入力シンポジウム (067)

- 1. 1991 年 11 月 12 日 (火)~13 日 (水)
- 2. 工学院大学 (東京都新宿区西新宿)
- 3. (社)テレビジョン学会
Tel. 03 (3432) 4677, FAX 03 (3432) 4675
- 4. 参加費：会員 15,000 円, 非会員 20,000 円, 学生 3,000 円

PHOTONICS '92—The 2nd Int'l, Workshop on Photonic Networks, Components and Applications (068)

- 1. March 9-11, 1992
- 2. Montebello, Quebec, Canada
- 3. 電子技術総合研究所 光情報研究室 石原 聰
Tel. 0298 (58) 5625, FAX 0298 (58) 5627

1992 Workshop on Interconnections within High-speed Digital Systems (069)

- 1. May 18-20, 1992
- 2. Santa Fe, New Mexico, USA
- 3. 主催：IEEE Lasers and Electro-Optics Society (LEOS)

国内連絡先：電子技術総合研究所 光情報研究室
石原 聰
Tel. 0298 (58) 5625, FAX 0298 (58) 5627

ICO Topical Meeting on Optical Computing (070)

- 1. June 29-July 1, 1992
- 2. ミンスク市 (ソ連白ロシア共和国)
- 3. 主催：国際光学委員会, 他
国内連絡先：電子技術総合研究所 光情報研究室
石原 聰
Tel. 0298 (58) 5625, FAX 0298 (58) 5627
- 4. 講演申込締切：1992 年 1 月 5 日

1st Int'l. Conf. on Intelligent Systems Engineering (071)

- 1. August 19-21, 1992
- 2. Edinburgh, UK
- 3. 東京大学精密機械工学科 富山 哲男
Tel. 03 (3812) 2111 (内 6454), FAX 03 (3812) 8849

WWDU '92—Work with Display Units (*046)

- 1. September 1-4, 1992
- 2. Berlin, Germany
- 3. Dr. Ahmet Çakir ERGONOMIC Institut für Arbeits- und Sozialforschung Soldauer Platz 3 D-1000 Berlin 19
Tel. +49 30 302 10 50 FAX +49 30 301 98 40
- 4. Deadline for receipt of abstract: December 15, 1991

4th Int'l. Symposium of the ISSA Research Section (072)

- 1. October 22-23, 1992
- 2. Strasbourg
- 3. INRS 30, Rue Olivier-Noyer, 75680 Paris Cedex 14

1992 Int'l Conf. on Computer Processing of Chinese and Oriental Languages (073)

- 1. December 15-19, 1992
- 2. Florida, U. S. A
- 3. 論文送付先：Professor Hisao Yamada Research and Development Department National Center for Science Information Systems Bunkyo-ku, Otuka 3-29-1 Tokyo 112, Japan
- 4. Paper Submission Deadline: April 1, 1992

国内会議

エンジニアリングシンポジウム '91

- 1. 1991 年 10 月 31 日 (木)~11 月 1 日 (金)
- 2. 東京商工会議所ビル
- 3. (財)エンジニアリング振興協会 シンポジウム事務局
Tel. 03 (3502) 4441, FAX 03 (3502) 5500

創造科学技術推進事業 (ERATO) 1991 研究報告会

- 1. 平成 3 年 11 月 7 日 (木), 8 日 (金), 10 日 (火), 11 日 (水)
- 2. 経団連会館 (東京都大手町)
- 3. 新技術事業団 創造科学技術推進事業部
Tel. 03 (3507) 3071, FAX 03 (3581) 1486
- 4. 入場無料

第14回 国際会議のための準備セミナー

1. 1991年11月16日(土)~17日(日)
2. 海外職業訓練センター研修施設(千葉市ひび野)
3. (社)日本工学会
Tel. 03 (3475) 4621, FAX 03 (3403) 1738
4. 参加費: 80,000円
申込締切: 1991年11月2日(土)

特別講演会「東欧の科学技術の現状」

1. 平成3年11月19日(火)
2. 健保会館(東京都港区南青山)
3. (社)日本工学会「特別講演会」係
Tel. 03 (3475) 4621, FAX 03 (3403) 1738
4. 講師: Marek Dietrich 博士(ポーランド国 ワルシャワ工科大学学長)
参加費: 会員5,000円, 学生会員2,000円,
非会員7,000円

システム制御情報チュートリアル講座 '91 システム**科学の基礎と応用—CIM 構築の技法と事例—**

1. 2. 大阪: 1991年11月26日(火)~28日(木)
コミュニティプラザ大阪(大阪市福島区福島)
- 東京: 1992年1月27日(月)~29日(水)
ダイヤモンド社(千代田区霞ヶ関)
3. システム制御情報学会 チュートリアル講座係
Tel. 075 (751) 6413, FAX 075 (751) 6037
4. 聴講料: 会員40,000円, 学生20,000円, 非会員50,000円
(全日)

**「基礎研究の振興と工学教育」シンポジウム—大学の
改革と学術法人活性化を目指して—**

1. 平成3年11月27日(水)
2. KIビル(東京都港区赤坂)
3. (社)日本工学会
Tel. 03 (3475) 4621, FAX 03 (3403) 1738
4. 参加費: 1,000円
申込締切: 平成3年11月11日(月)

**第2回 公開ワークショップ「ヒトゲノム計画と情報
解析技術」**

1. 1991年12月9日(月)~10日(火)
2. 星陵会館(東京都千代田区永田町)
3. 東京農工大学工学部 美宅 成樹
Tel. 0423 (81) 4221 (内 317), FAX 0423 (87) 6591

**トロン技術研究会—ソフトウェアポータビリティ
シンポジウム**

1. 平成4年1月20日(金)

2. こまばエミナース(東京都目黒区大橋)
3. (社)トロン協会 Tel. 03 (3433) 6741
4. アブストラクト締切: 平成3年11月8日(金)

講習会「ファジィ理論と知識獲得」

1. 平成4年1月24日(金)
2. 三田出版会(大阪府北区中崎西)
3. 日本ファジィ学会関西支部 大阪工業大学工学部経営
工学科 和多田淳三
Tel. 06 (952) 3131 (内 3702), FAX 06 (952) 6197
4. 申込締切: 平成4年1月20日

**第6回「大学と科学」公開シンポジウム—人工知能と
ニューロコンピュータ, 人智に近づく情報処理**

1. 平成4年1月27日(月)~28日(火)
2. 経団連ホール(東京都千代田区大手町)
3. ルーム・ツウ内 第6回「大学と科学」公開シンポジウム
事務局
Tel. 03 (3588) 8641, FAX 03 (3588) 8516

第4回 マイクロマシンシンポジウム

1. 1992年3月11日(水)~12日(木)
2. TEPIA(東京都港区北青山)
3. 主催: マイクロマシン研究会
問合せ先: 東京大学工学部機械工学科
中島尚正, 藤正 巖
Tel. 03 (3812) 2111 (内 6328 中島, 内 3562 藤正)

第13回 計算電気・電子工学シンポジウム

1. 平成4年3月30日(月)~31日(火)
2. 日本科学技術連盟(東京都渋谷区千駄ヶ谷)
3. 日本シミュレーション学会
Tel. 03 (5379) 1236, FAX 03 (3225) 1814
4. 発表申込締切: 平成3年12月6日(金)

第9回 センシングフォーラム

1. 1992年4月7日(火)~8日(水)
2. 東京工業大学百年記念館(東京都目黒区大岡山)
3. (社)計測自動制御学会
Tel. 03 (3814) 4121
4. 講演申込締切: 1991年11月19日(火)

'92 新素材展(第8回)

1. 1992年5月19日(火)~22日(金)
2. 幕張メッセ(千葉市中瀬)
3. 日本経済新聞社 事業局総合事業部 新素材展事務局
Tel. 03 (3270) 0251
4. 入場料: 1,000円

教官募集



○大学等情報関係教官募集

学術情報センター研究開発部 ①学術情報研究系 ②システム研究系

募集人員 助手若干名
 所属部門 ①情報管理学研究部門 ②ソフトウェア工学研究部門
 研究分野 ①情報図書館並びに計量書誌学
 専門分野 ②計算機システムまたはソフトウェア
 応募資格 ①修士以上の学位を持つ者（または取得見込み）またはこれと同等以上の研究業績を有する者で年齢30歳以下が望ましい。
 ②博士の学位を持つ者で（または取得見込み）年齢30歳以下が望ましい。
 採用予定 決定後なるべく早い時期
 提出書類 履歴書（研究教育歴、所属学会、学位、賞等取得状況を記入）、研究業績リスト（論文、著書を公表年順に記載、主要な業績について5編以内の別刷を添付、推薦書（ある場合は同封、または応募者について参考意見を述べ得る人がある場合は、2名程度の氏名及び連絡先）
 応募締切 平成3年11月30日
 送付先 112 文京区大塚 3-29-1
 問合せ先 学術情報センター管理部長総務課人事係
 Tel. 03 (3942) 6915
 「教官応募書類在中」と朱書し、書留

東京工業高等専門学校

募集人員 情報工学科助手1名
 担当科目 計算機ソフトウェアおよびハードウェアに関連する実験と演習の指導。
 応募資格 大学院修士課程修了以上またはこれに準ずる者。年齢35歳位まで。
 提出書類 履歴書、業績一覧（論文、著書等）、主要論文別刷。
 応募締切 平成3年11月30日
 採用予定 平成4年4月1日
 送付先 193 八王子市栲田町 1220-2
 問合せ先 東京工業高等専門学校情報工学科主任 飯塚 肇
 Tel. 0426 (61) 3066 (代)

高松工業高等専門学校電気工学科

募集人員 助教授または講師1名
 専門分野 情報工学または電子工学
 担当科目 電子計算機に関連した科目
 応募資格 修士課程修了者またはそれと同等以上の学力のある者（将来博士号取得の意欲のある方が望ましい）
 採用予定 平成4年4月1日
 提出書類 履歴書、研究業績一覧表、主要論文別刷（コピー可）。
 応募締切 平成3年11月30日
 送付先 761 高松市勅使町 355
 問合せ先 高松工業高等専門学校電気工学科主任 吉岡捷爾
 Tel. 0878 (67) 0276

千葉大学工学部

募集人員 情報工学科教授1名
 専門分野 知識情報学講座（知識工学、言語理論）
 応募資格 年齢50歳以上、博士の学位を有し上記分野で研究業績のある者
 応募締切 平成3年11月30日

問合せ先 千葉大学工学部情報工学科主任 三宅洋一
 Tel. 0472 (51) 1111 (内 2940)
 FAX 0472 (51) 7337 (応募要項を送付します)

福井工業高等専門学校電子情報工学科

募集人員 教授、助教授各1名
 担当科目 情報処理、情報科学分野に関する授業科目
 応募資格 教授、助教授は、博士の学位をもつか、またはこれと同等の能力・業績があると認められる者で、着任時、教授57歳以下、助教授40歳以下の者。履歴書、業績一覧、および主要論文別刷など審査対象となりうる資料。
 提出書類 平成3年12月10日
 応募締切 916 鯖江市下司町
 送付先 福井工業高等専門学校電子情報工学科主任
 問合せ先 佐々木高夫 Tel. 0778 (62) 1112 (内 404)

福井大学工学部情報工学科

募集人員 助教授または講師2名（下記（イ）、（ロ）について各1名）
 所属 工学部情報工学科（イ）計算機システム講座、（ロ）情報処理講座
 専門分野（イ）計算機ハードウェア、計算機アーキテクチャ（ロ）生体情報処理（神経科学（生化学、生物物理、生理学等）に関する実験の経験がある者が望ましい）
 担当科目 情報工学関連科目
 応募資格 ①年齢（イ）40歳位まで、（ロ）35歳位まで
 ②博士の学位を有し、上記の専門分野で研究業績がある者（講師の場合には近々博士号取得が確実な者でもよい）、③情報工学科の専門課程および大学院における教育と研究指導に当たれる者。
 着任時期 平成4年4月1日
 提出書類 履歴書（連絡先も明記）、研究業績目録（論文、著書、講演予稿、その他、の項目別）、主要論文別刷、研究に関するこれまでの経過と将来の展望・計画、及び教育についての抱負を簡潔に記したもの（形式不問）。
 応募締切 平成3年12月15日
 送付先 910 福井市文京3丁目9番1号
 問合せ先 福井大学工学部情報工学科主任 奥村彰二
 Tel. 0776 (23) 0500 (内 2825) または 0776 (27) 8580 (ダイヤルイン)
 「情報工学科教官応募書類」と朱書し、書留。

成蹊大学工学部経営工学科

募集人員 教授または助教授1名
 専門分野 確率統計、OR、応用数学
 応募資格 博士の学位を有すること。
 着任時に35歳以上であることが望ましい。
 採用予定 平成4年4月1日
 提出書類 履歴書、業績書、主要論文（3～5件）の別刷
 応募締切 平成3年12月20日（適任者が決定次第締切る）
 送付先 180 武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1
 問合せ先 成蹊大学工学部経営工学科主任教授 飯田善久
 Tel. 0422 (51) 5181 (内 592)
 FAX 0422 (55) 9879

福岡工業大学電子機械工学科

募集人員 教授1名
 専門分野 電子、電気、計測・制御工学及びその関連分野
 応募資格 電気、電子、計測・制御工学等の分野を専攻し、その分野の博士の学位を有し、55歳以上65歳以下の者、大学院（修士課程・計画）の研究指導も可能な者。
 採用予定 平成4年4月1日または平成4年10月1日
 着任時期 平成3年12月25日
 応募締切 811-02 福岡市東区和白東 3-30-1
 送付先 福岡工業大学電子機械工学科主任 大森舜二
 問合せ先 Tel. 092 (606) 3131 (内 2307)
 (応募要項を送ります)

編集室



会員の声

Best Author 賞のアンケートが少ないという話がありましたので、私の意見を述べさせていただきます。

1. アンケートの回収率の悪さ

学会誌のアンケートを集める上での問題を以下にあげてみた。

(1) 通常、意見(不満)のある人間しか、意見はいわないものである。特に、郵便なり、FAX などの料金がかかる場合にはなおさらである。

(2) 読んでもいないものの意見は出せない。

(3) 基準のないもののランクは出せない。

特に以上のうち、(1)については、アンケートを集める基本となると考えている。自分にとって何らかのメリット(たとえば、雑誌のアンケートにはプレゼントがついている。)がなければ、62円でも、10円でも、20円でも、払ってアンケートを送る人間など少ない。(全然いわけではないだろう。)

(2)については、重症である。たとえば、今号(32巻8号)についてみると、人工知能についても、興味なく、気候モデルなど作っていない、エキスパートシステムの設計も、開発もしていない人間にとって、読める(読もうと思う)記事は少ない。では、他はどうかとながめれば、例の「はじめに」→「××の設計」→「問題」→「今後の課題」→「まとめ」→「謝辞」と続く。おきまりの論文パターンで続いている。こうカタクでは、読む気もおきない。「読めない論文の評価はできない」というのが本音である。

2. 何が問題でどうすればよいか

(1) 査読をクロスでおこなう

記事、解説の査読を専門以外の人と、クロスでおこない専門以外の人(が)わからない記事はのせるべきではない。少なくとも、記事のアウトラインだけでも、会員がだれでもわかるレベルにすべきである。どうせ、学会誌の記事では専門の人間であれば、だれでも知っているレ

ベルの話がでるのだから。

(2) もっと、辛口のコラムがあっても良いのでは

コラムと名のつくものが、巻頭言だけではいかにもさみしい。もっと、コラムが多くても良いのではないだろうか。それとも、コラムは商業誌のもので、学会誌では、必要ないとも言えるだろうか。一方に片寄った意見ならば、誌上の良い議論のもととなって、良いのではないかと思うが、学会誌が静かなのは、みんなが無口なのかもしれないが、意見を言いたいような記事がないことが原因ではないか。だれも、教科書のような表面上の論文に文句などを言う人間はいないと思うが。

(3) 現場の見える記事、特集を

現在、どこの現場でも、問題がないわけではないだろう。学校なら学校、会社なら会社なりに問題が山積みになっているように思われるがどうだろうか。

最近、ソフトウェア関係の図書について調べる機会があったので、あちらこちらを読みあさったが、ソフトウェアを作る現場の状況は、20年前と大差がないということに気付いた。この間、われわれは何をやっていたのだろうか。あいかわらず、人海戦術で作られるソフトウェアのオンラインや、飛行機が動いているかと思うとおそろしくたまらない。では、人の質はあがっているかという点、情報出身の連中は、銀行へ流れ、はたまた、大学院へ進んで「O-D へまっしぐら」というのが現状ではないか。その質もあやしいが…

「情報処理」学というものを考える仲間でも、もっと腹をわって、話し合えないものだろうか。人工知能やCSの解説は、研究会のニューズレターや、研究会の人集めの入門記事で充分なのではないかと考えるが、私は、人の質の向上に関するカゲキな意見の特集(単に説明ではなく意見)や、ソフトウェアエンジニアリングに明日があるかどうかの特集の方が面白く、多くの人間が意見を言いやすいのではないかと思うがいかなものだろうか。

最後に、学会誌の広告だが、収入源として大切なのはわかるが、巻頭にぎっしりつまっているのはいただけない。(まだ、電気×××学会に比べると少ないとは思いますが)特に、やたら厚紙を使った転職屋の広告が、内容を読むさまたげになっている。(学会誌がひろげにくい!!)やはり、広告は後におさがりねがって、表紙をあけて、1、2枚目に、目次、巻頭言というのが良いレイアウトだと思うがいかなものだろうか。

最後に本学会の今後の発展を願いつつ。

(日立ソフトウェアエンジニアリング(株) 大野 晋)

事務局だより一出版物の複写権について

出版物の複写権については、コピー被害から著作者や出版者を保護すること、国内外への文献利用の公開促進をはかることの2つが求められています。1990年5月には「日米科学技術協力協定」に関連して、米国から日本の文献の複写利用を行う場合には、個々の機関と契約することになり、文献の複写利用が困難なため、複写権を集中した機構の設置を求められました。そこで、文化庁は著作権審議会から、出版物のコピーに対し出版者の報酬請求権を著作隣接権（版面権）として認め、出版者に料金を支払う、この受払いは複写権センターで一括するなどの答申を受け法施行に向けて関連団体の指導、斡旋を行っています。

関連団体としては、学協会著作権協議会、出版者著作権協議会、著作者団体協議会、日本脚本家連盟等の仲介業務団体の4団体があり、文化庁長官斡旋により「日本複写権センター(任意団体)」設立発起人会を設け協議を継続しています。

当学会は日本工学会を通じて、学協会著作権協議会に加入しており、理事会承認を受け1990年7月複写権の委託（権利の集中的委託とその行使、権利行使に伴う事務の代行）を同協議会と締結し、著作権の取扱いについてお知らせをいたしました。その後、学協会著作権協議会は日本複写権センター設立が1991年9月末となったため、「学協会著作権集中処理システム」を1990年12月に設立し、複写権の委託、権利の行使、複写権の外国の複写権管理団体への再委託、使用料の分配保留等を具体的に進めることとし、加入学協会へ「複写に係わる権利委託契約書(定期刊行物)」の締結を求め、9月理事会において、これが承認されたので契約となりました。これにより、CCC(米国)登録著作物の複写は内国民待遇となり、日本複写権センター(学協会著作権集中処理システム)へ国内方式の使用料を支払うことにより、複写できるようになります。なお、学協会著作権集中処理システムの運営の細部が決まりましたら、会告にて詳細にお知らせいたします。
(飯塚浩司)

訂 正

本誌第32巻第8号(1991) pp. 969~976に掲載されました「IEEE Computer Society (CS) および Association for Computing Machinery (ACM) の最近の活動状況について」の著者山田昭彦氏の申し出により、p. 972の右段11行目を以下の通り訂正します。

(誤)

支出 2,150万ドル (28.7億円)

(正)

支出 2,050万ドル (28.7億円)

